

7. 資 料

センターニュース より

1. コンピュータネットワークにおけるR J Eサーバの運用開始について (No.55)
2. 大学間コンピュータネットワークにおけるT S Sサーバの運用開始について (No.50)
3. V. 2 2規格モデムによるT S Sサービス (2400bps, 1200bps) 開始について (No.52)
4. 利用者貸出機器について (No.53)
5. 文書処理システムODMの使用方法 (2) (No.65)
6. 英文清書システム (富士通ATF) について (No.59)
7. TACライブラリについて (No.56)
8. ジョブの状態表示について (No.49)
9. 磁気テープ用T S Sコマンドについて (No.58)
10. 私信メッセージの送信にコマンドについて (No.61)
11. グラフィックディスプレイ装置の利用について (No.49)
12. グラフィック端末におけるPFDコマンドの使用方法について (No.51)
13. データセットの整理について (No.50)
14. T S Sデータセット (D S P R I N T) の利用について (No.49)
15. D S P R I N Tコマンドによる印刷依頼の状況表示について (No.53)
16. 日本語文字 (J E F 漢字拡張漢字) の出力について (No.50)
17. 日本語ラインプリンタ装置 (F 6 7 1 5 E 2) への英小文字出力について (No.51)
18. 日本語ラインプリンタ装置 (F 6 7 1 5 E 2) へのカタカナ小文字出力について (No.55)
19. オフィスプリンタ装置 (O P R) の使用について (No.57)
20. オフィスプリンタ装置 (O P R) への図形出力について (No.57)

1. コンピュータネットワークにおけるR J Eサーバの運用開始について

大学間コンピュータネットワークにおいて、他大学の計算機センターのコンピュータシステムより、本センターのシステムをR J Eで利用するためのR J Eサーバの運用を開始しました。出張した場合や、共同研究における情報交換等に御利用下さい。

2. 大学間コンピュータネットワークにおけるT S Sサーバの運用開始について

大学間コンピュータネットワークにおけるT S Sサーバの運用を開始しました。

このT S Sサーバ機能とは、大学間コンピュータネットワークに加入している他大学の計算機システムのT S S端末から依頼されたジョブを、当センターの計算機システムで処理する機能のことです。従って、全国の各大学の計算機システムが、大学間コンピュータネットワークに加入するならば、何処の大学の計算機システムのT S S端末からでも、当センターの計算機システムを利用することができます。現在は、全国共同利用の大型計算機センターのT S S端末から当センターの計算機システムを利用することができます。他大学に出張した場合や、他大学との共同研究における情報交換に大いに御利用下さい。

3. V. 2 2規格モデムによるT S Sサービス (2 4 0 0 b p s , 1 2 0 0 b p s) 開始について

従来、交換回線の1 2 0 0 b p s 端末についてはV A D I C仕様の音響カプラによる利用に限られていました。最近、国際標準V. 2 2規格モデムが開発され相当安価に入手できるものもあります。

今後この方式のモデムによる交換回線の利用が主流となると思われますので4月1日よりC C I T T - V. 2 2準拠のモデム (2線式全2重) によるT T Y手順 (2 4 0 0 b p s , 1 2 0 0 b p s) T S Sサービスを開始しています。

なお、センター側のモデムは、富士通製のF1935HA(2400bps, 1200bps)です。1200bpsによる利用の場合には、富士通製F1931Hモデム(TTY手順、NCU内蔵型)と、同等の仕様のものであれば接続可能ですが、購入しても接続できないというトラブルを避けるために、22規格のモデムを購入される場合には、センター研究開発室(内線2239)に御相談下さい。

4. 利用者貸出機器について

現在センターでは次の装置を、利用者に貸出していますので御利用下さい。

- (1) V. 22規格モデム(2400/1200bps)4台
- (2) 1200bps音響カプラ.....3台
- (3) ポータブル端末装置(00bps)2台

上記(1),(2)はお手持ちのパーソナルコンピュータを、センターのコンピュータシステムと電話で接続するための装置です。

5. 文書処理システムODMの使用法(2)

ニュースNa61で文書処理システムODMの使用法の概要を説明しましたが、今回はODMで初めて文書を作成し、保存・印刷するまでの処理についてパネル画面を示しながら説明します。

使用法

READY

ODM

ODMコマンドを入力すると「文書処理システム初期パネル」画面が表示される。

```
-----< 文書処理システム初期パネル >-----
処理選択==> 0                パスワード==>
                                ユーザID=F9999   時刻=10:08

0 属性定義      -  私有ライブラリの設定、文書処理システムの属性の定義
1 文書作成      -  新規文書の作成・編集
2 文書更新      -  既存文書の更新
3 既存文書の処理 -  文書の表示、印刷、削除、複写、移動、メール発信、
                        文書の取出し、文書情報表示、文書情報変更
4 メール受信    -  受信メール（個人宛、メールボックス宛、掲示板）の処理
5 その他の機能  -  文書の登録、文書情報一覧印刷、発信履歴処理、
                        宛先リスト処理、印刷依頼取消し、受信状況確認
6 使用方法の説明 -  文書処理システムの使用方の説明
7 PFD          -  PFDの呼出し
X 終了          -  文書処理システムの終了

私有ライブラリ: UNDEFINED

'END'キーを押すことにより、文書処理システムは終了する。
```

項目「0」を選択し、ENTERキーを押すと、「属性定義パネル」画面が表示される。

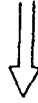


```
-----< 属性定義 >-----
処理選択==> 3

1 端末特性      -  端末の特性を定義する。
2 ログ/リスト   -  ログ/リストデータセットに関するパラメタを設定する。
3 PFDキー      -  端末の24ファンクションキーの機能を定義する。
4 私有ライブラリの設定
```



項目「3」を選択し、ENTERキーを押す。



```
-----< ファンクションキーの定義 >-----
端末におけるPFキーの機能を定義する。

PF1 ==> HELP
PF2 ==> >CALL
PF3 ==> END
PF4 ==> RETURN
PF5 ==> FIND
PF6 ==> CHANGE
PF7 ==> UP
PF8 ==> DOWN
PF9 ==> >FORMAT
PF10 ==> LEFT
PF11 ==> RIGHT
PF12 ==> CURSOR
PF13 ==> HELP
PF14 ==> >RESET
PF15 ==> END
PF16 ==> >RETRY
PF17 ==> >SHOW
PF18 ==> CHANGE
PF19 ==> UP
PF20 ==> DOWN
PF21 ==> >EDIT
PF22 ==> >PDOWN
PF23 ==> >PUP
PF24 ==> CURSOR

ファンクションの種類：(空白にすれば省略時の値がとられる)
HELP END RETURN FIND CHANGE UP
DOWN LEFT RIGHT CURSOR NOP PRINT

又は文書作成・更新、表示のコマンドを定義する。
>CMD... (コマンド) 例：PF10 ==> >PUP
```

このままのPFキーの定義でよければ、END (PF3) を押し、「属性定義パネル」画面まで戻る。



次に項目「4」を選択し、ENTERキーを押す。

```
-----< 利用者属性変更パネル >----- 設定成功

私用ライブラリの設定

***私用ライブラリ名 ==> 'F9999.ODM.TEXT'
(完全修飾名指定、ただし'は除く)
処理選択 ==> 1

1. 新規割当ての時、上記***の部分に私用ライブラリ名を指定
   かつ必要なら以下を指定
   スペース割当て (初期値) ==> 10 (TRK, 省略値: 10)
   スペース割当て (増分値) ==> 5 (TRK, 省略値: 5)
   ディレクトリブロック数 ==> 10 (省略値: 10)

2. 私用ライブラリの切り替えの時、上記***の部分にそのライブラリ名
   を指定。
```

ここでは必ず、「私用ライブラリ名」を入力し、初めてODMを使用する時には「私用ライブラリ」を新規割当て (処理選択: 1) にする必要がある。尚、この画面は、ODMを使用する時には必ず処理しなければならない。画面右上に「設定成功」と表示されたならば正常処理が行われたことを意味する。ENDキー (PF3) を押し、「文書処理システム初期パネル」まで戻す。

「文書処理システム初期パネル」で項目「1」を選択し、ENTERキーを押す。

```

-----< 環境定義 >-----

辞書名      単語 (基本) ==> 'PFD. JDICTLIB'
           パスワード ==>

           単語 (私用) ==>
           パスワード ==>

           単語      ==> 'PFD. KDICTLIB'
           パスワード ==>

テキストマクロ
           ライブラリ名 ==>
           メンバ名   ==>
           パスワード ==>

文書データ
  自動回避機能      ==> 1          (1:動作 2:停止)
  回避ファイル名   ==> FDMSSAVE. ALL
  対象文書         ==> 1          (1:本文 2:目次 3:索引)
  表示形式         ==> 2          (1:編集 2:清書)
  ページ形式       ==> 1          (1:指定あり 2:指定なし)
  
```

ENTERキーを押す。

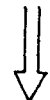


```

-----< ページ形式 >-----

用紙 形式 ==> 1
      1 定型用紙 ==> 1          (1:A4 2:B4 3:A5 4:B5)
      2 非定型用紙... 縦(行数) ==> 66          (42から108)
                           横(文字数) ==> 61          (10から136)
  方向 (A4またはB4) ==> 1          (1:縦 2:横)
  本文開始行      ==> 7
  本文開始桁      ==> 6
  本文 段組 ==> 1
        1 一段組
        2 二段組... 段間文字数 ==> 0
  行数            ==> 54          (6行 以上)
  一段当り文字数 ==> 39          (10文字 以上)
  行間隔         ==> 1          (1:6LP1 2:8LP1)
  行送り間隔     ==> 1          (1:1行 2:2行 3:3行)
  文字の大きさ   ==> 1          (1:9ポ 2:12ポ 3:7ポ)
  清書タイプ     ==> 1          (1:OPR 2:HNLP, NLPE)
                                   (3:NLP 4:BDP, NPR)
                                   (5:NDP, WDS, BGD, IDP)

  英小文字半角   ==> 1          (1:有 2:無)
  機能レベル     ==> 1          (1:標準 2:拡張)
  イメージ出力   ==> 1          (1:要 2:不要)
  
```



ENTERキーを押す。

```

-----< 印刷条件 >-----

割付け開始ページ番号 ==> 1          (1 から 9999)
注釈印刷日付時刻 ==> 2          (1:有 2:無)
割付け時刻 ==>                    (YYMMDD)
スペース置換文字 ==> 4040        (HHMMSS)
グラフィック置換文字 ==> 4040    (16進数で入力)
ページ ==> 1                      (16進数で入力)
IME ==> 1                          (1:表示 2:非表示)
IME ==> 1                          (1:表示 2:非表示)

置換文字の例
□ : A2A2   - : A1BE   ^ : A1B0
○ : A18B   △ : A2A4   ◇ : A1FE
  
```



ENTERキーを押すと、文書入力可能な画面になる。

```

文書名          テキスト入力待ち
コマンド ==>          縦 ==> HALF
(001)          入力モード 横 ==> HALF
-----10-----20-----30-----4
♦
  
```



この画面で、文書の作成を始めることができ、ローマ字、カタカナ文字をコマンド入力行に入力する。

```

文書名          テキスト入力待ち
コマンド ==> NAGASAKI  縦 ==> HALF
(001)          入力モード 横 ==> HALF
-----10-----20-----30-----4
♦
  
```



ENTERキーを押すと変換される。

```

文書名          0001 ページ 移動量
コマンド ==>          縦 ==> HALF
(001)          入力モード 横 ==> HALF
-----10-----20-----30-----4
長崎
♦
  
```

文書作成の詳細は、センター発行の「文書処理システムODMの使用法」を参照されたい。

文書作成を終了する時は、ENDキー（PF3）を押す。以下の画面が表示される。

```
-----< 編集後処理 >-----
処理選択 ==> 2

1 表示      - 文書の表示
2 保存      - 私有・共用ライブラリへの保存
3 メール発信 - 文書のメール発信
4 印刷      - 文書の印刷
5 再編集    - 文書の再編集
6 グラフ処理 - グラフ組込み処理
```



「保存」する時は、項目「2」を選択し、ENTERキーを押す。

```
-----< ライブラリ指定 >-----
ライブラリ種別 ==> 1

1 私有ライブラリ

2 共用ライブラリ

   ライブラリ名 ==>
   文書タイプ  ==>

文書識別番号指定 ==>
(未入力の場合はシステムによって割り付けられる。)

1 直接指定 ==>

2 範囲指定 (始端) ==> (未入力は1)
   (終端) ==> (未入力は99999)
```



保存すべき文書は、私有ライブラリに登録するので「1」を選択する。

```
-----< 文書情報変更表示 >-----
文書情報：

文書名「                               」
カナ文書名 ==>
作成日 ==> 85. 05. 25
所有者 ==> F9999
           ==> ライブラリ室 (日本語)
保存期限 ==>
注釈「                               」
```



(文書名は省略可) ENTERキーを押す

文書名を入れる時は、本文の中でコマンドにより入力することができる。

再び「編集後処理」画面に戻り「2」（保存）と入力する。画面右上に「保存完了」と表示される。

```
文書作成-----< 編集後処理 >-----保存完了
処理選択 ==> 2

1 表示          - 文書の表示
2 保存          - 文書の保存
3 メール発信   - 文書のメール発信
4 印刷          - 文書の印刷
5 再編集       - 文書の再編集
6 グラフ・図形処理 - グラフ・図形の組込み処理
```

作成文書を印刷するときは、「4」（印刷）と入力し、ENTERキーを押す。

```
文書作成-----< 印刷出力先 >-----
出力先 ==> 2
1 端末.....端末プリンタ名 ==> L487
2 センタ.....出力クラス   ==> D
複製
印刷部数 ==> 1 (1-255)
ページ複写数 .....
割付開始ページ番号 ==> 1 (1-9999)
印刷ページ範囲 (1-99999)
印刷開始 ==> 1 終了 ==> 9999
印刷文書形式 ==> 1
1 標準 2 印刷時指定
印刷方式 ==> 1
1 バッチ 2 オンライン
ジョブ文指定 (バッチ印刷方式時有効)
==> //FO011P JOB ,CLASS=F
==> /*
==> /*
==> /*

-----
文書識別番号:
-----
| 1 ==> 0 |
| 2 ==> 0 |
| 3 ==> 0 |
| 4 ==> 0 |
| 5 ==> 0 |
| 6 ==> 0 |
| 7 ==> 0 |
| 8 ==> 0 |
-----
```

・出力先……プリンタ装置に出力させたい時は、「1」を指定し、端末プリンタ名==>の所にプリンタ端末IDを入力する。センター内の日本語ラインプリンタ装置(NLP)に出力する時は、出力先==>2を指定し、出力クラスDを入力する。

・印刷方式…1. バッチ, 2. オンラインの2通りあるが、少量文書の時は、2オンラインを使用する。「1バッチ」を指定した時は、バッチ処理が自動的に起動されるので、ジョブ文指定の==>にJOB文を作成する。



ENTERキーを押す。



```

文書作成-----< ページ形式 >-----ページ文字数が用紙より大

用紙 形式 ==> 2
      1 定型用紙 ==> 1          (1:A4 2:84 3:A5 4:85)
      2 非定型用紙....縦(行数) ==> 68      (半行間隔の倍数)
                                       横(文字数) ==> 50
      方向(A4 または B4 ) ==> 1          (1:縦長 2:横長)
      本文開行折 ==> 4          (1行(NLP,HNLP,NLPEは3行)以上)
      本文開折 ==> 4          (1折以上)
      本文段 1 一段組 ==> 1
      2 二段組 .....段間文字数 ==> 0      出力装置: BGP2
      行数当文字数 ==> 50          (6行以上)
      一行間隔の文字数 ==> 45      (10文字以上)
      一行間隔の文字数 ==> 1          (1:6LPI 2:8LPI)
      一行間隔の文字数 ==> 1          (1:1行 2:2行 3:3行)
      一行間隔の文字数 ==> 1          (1:9ポ 2:12ポ 3:7ポ)
      一行間隔の文字数 ==> 1          (1:1/5 2:3/20) NPR2,BGP2のみ
      本文の配 1 1ページ
      2 1用紙 2ページ....ページ間文字数 ==> 0
  
```

- ・用紙形式には1 定型用紙、2 非定型用紙の2通りがある。(1 定型用紙はOPRに出力する場合、2 非定型用紙はBGP, NPR, NLPに出力する場合)
- ・用紙を本文間で、矛盾を生じないように値を設定する。もし値の設定ミスがあれば、ENTER キーを押した時、画面の右上にメッセージが表示される。

用紙の型と出力形式

用紙		縦		横			
		6LPI	8LPI	7ポ	9ポ	12ポ	
非定型用紙		30~72	30~96	136	109	68(90)	
定型用紙	A4	縦長 横長	66 45	88 60	77 110	61 88	38(51) 55(73)
	B4	縦長 横長	81 57	108 76	95 131	76 104	47(63) 65(87)
	A5		30	40	77	61	38(51)
	B5		39	52	95	76	47(63)

(注)
定型用紙の印刷方向
・A4, B4は縦長、横長が可能である。
・A5, B5は横長である。

- ・NLPの7ポは9ポで処理される。
- ・BGP, NPRは常に12ポで処理される。
- ・()内はBGP2, NPR2における3/20印字間隔の場合である。



ENTERキーを押す。



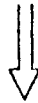
```
KDP800I REQUEST STARTED, REQUEST NUMBER IS 00439
***
```

ENTERキーを押す。



```
KDP800I REQUEST STARTED, REQUEST NUMBER IS 00439
KDP801I REQUEST ENDED, REQUEST NUMBER IS 00439
***
```

ENTERキーを押す。

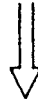


「編集後処理」画面



文書出力

ENDキー (PF3) を押す。



文書処理システム初期パネル

ENDキー (PF3) を押す。



ODM終了

6. 英文清書システム (富士通ATF) について

英文清書システム (Advanced Text Formatter for science) は、TSS処理のもとで、英論文の作成・清書出力を行うシステムです。文章ばかりでなく、表・グラフ・数式・図版なども作成することができます。字体には、ローマン体、イタリック体、サンセリフ体、スクリプト体があります。次に出力例を示します。

<文章>

ABCDEFGHIJKLMN OP QRSTUVWXYZ	}	ローマン体
abcdefghijklmnopqr st uvwxyz		
ABCDEFGHIJKLMN OP QRSTUVWXYZ	}	ローマン体太字
abcdefghijklmnopqr st uvwxyz		
ABCDEFGHIJKLMN OP QRSTUVWXYZ	}	イタリック体
abcdefghijklmnopqr st uvwxyz		
ABCDEFGHIJKLMN OP QRSTUVWXYZ	}	イタリック体太字
abcdefghijklmnopqr st uvwxyz		
ABCDEFGHIJKLMN OP QRSTUVWXYZ	}	サンセリフ体
abcdefghijklmnopqr st uvwxyz		
ABCDEFGHIJKLMN OP QRSTUVWXYZ	}	スクリプト体
abcdefghijklmnopqr st uvwxyz		

0123456789	}	ローマン体
0123456789		
0123456789	}	ローマン体太字
0123456789		
0123456789	}	イタリック体
0123456789		
0123456789	}	イタリック体太字
0123456789		
0123456789		サンセリフ体
0123456789		スクリプト体

<グラフ>

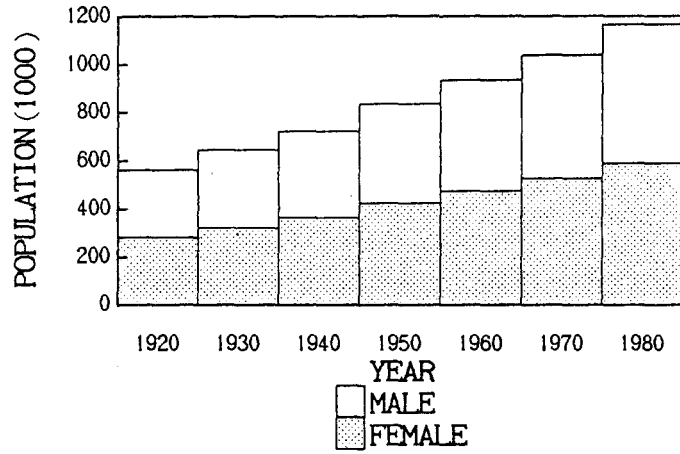


Fig.4.2 BAR GRAPH

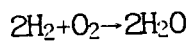
<表>

Table 2.1 VALUE OF $\Sigma N M^{-3} S^{-1}$

TEMPERATURE	D-T
1.5 KEV	2.0×10^{-28}
15.0	1.5×10^{-25}

<数式>

$$Y = \int_{-\infty}^{\infty} \exp Z \, dZ$$



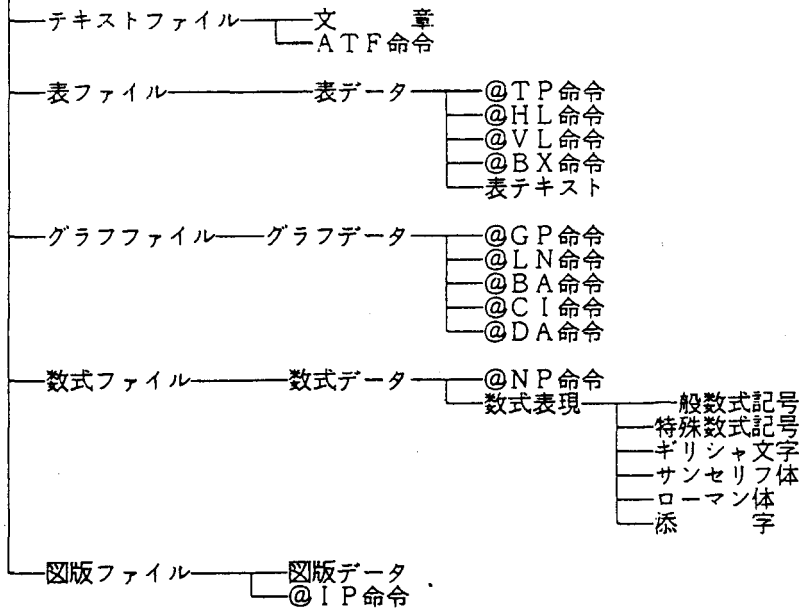
ATFでは、TSSのEDITコマンドにより、文章、文章に対する種々な命令（強制改行、字体）、清書する場合のレイアウトをテキスト（入力データ）として作成し、端末装置または日本語ラインプリンタ装置に清書出力を行います。

ATFの処理一覧は、次の通りです。

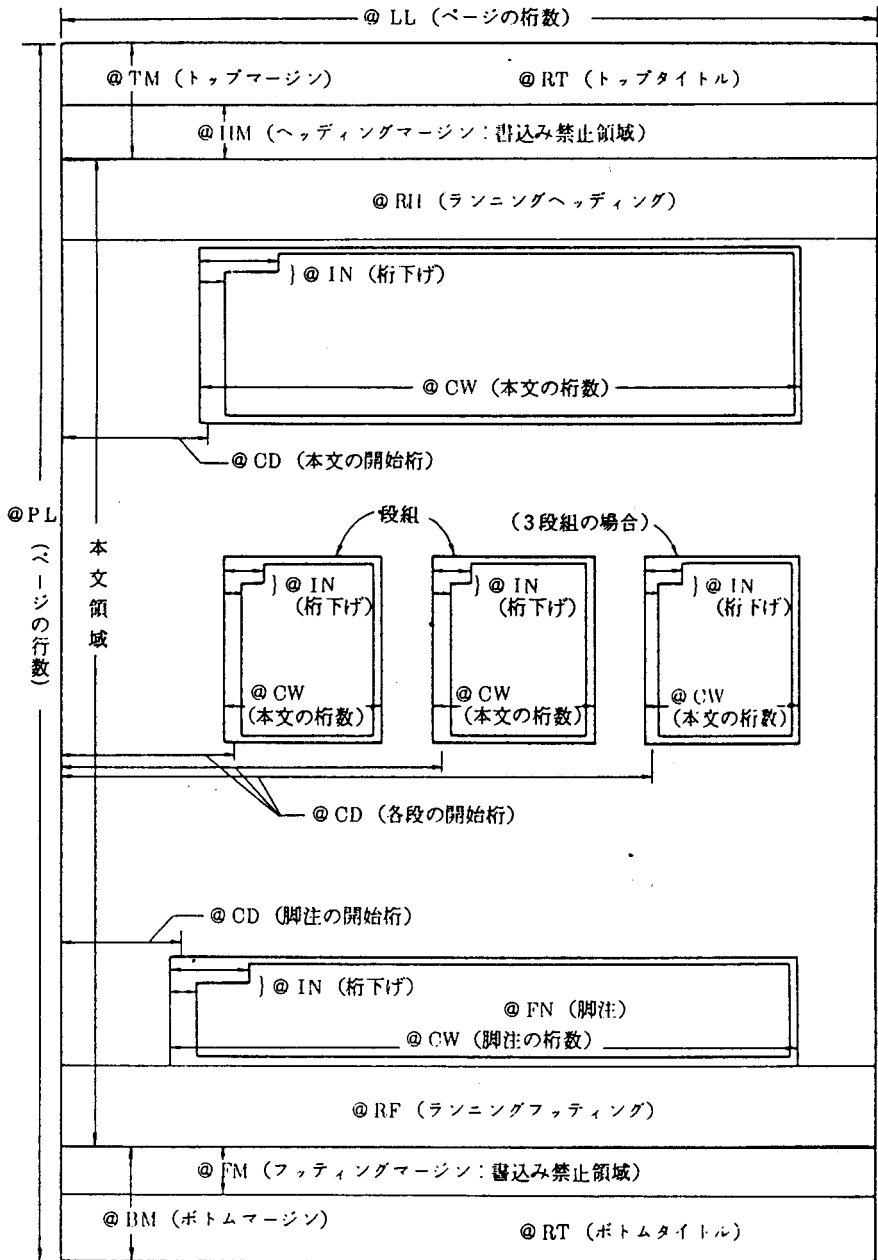
ATFプログラム一覧

プログラム名	対応コマンド	機能概要
文章版編集清書プログラム	FORMAT	英文章を端末、ラインプリンタ装置又は端末用清書済みファイルに編集清書する。
文章版清書出力プログラム	PAGEOUT	端末用に編集清書された英文章のファイルの指定部分だけを清書出力する。
数式版編集清書プログラム	NLP	英文章、表、グラフ及び数式を日本語ラインプリンタ装置又はNLP用清書済みファイルに編集清書する。
数式版清書出力プログラム	NLPPAGE	NLP用に編集された表、グラフ及び数式を含んだ英文章のファイルの指定部分だけを清書出力する。
つづりチェックプログラム	SPELL	入力データの単語のつづり誤りを調べ、つづりを修正して正しいつづりの入力データを作成する。
確認表示プログラム	DISPLAY	表を清書イメージに類似した形式で端末に出力する。また、グラフデータ及び数式データのシンタックスチェックの結果を端末に出力する。
問合せプログラム	TEACH	ATF命令の構文の説明やATFの使用例を端末に出力する。
単語帳作成プログラム	WORDS	単語帳ファイルの作成や、単語の追加、削除を行う。
化学式辞書更新プログラム	SYMBOL	化学記号ファイルの化学式の追加、削除を行う。
文字パターン確認プログラム	FONT	ユーザ定義の文字パターンを花文字で表現したものを、日本語ラインプリンタ装置に出力する。
文字パターン変更プログラム	UPDPAT	ユーザ定義の文字パターンを文字パターンファイルに登録する。

入力データ



清書論文のレイアウトのためのATF命令



清書論文のレイアウト

使用例 (テキスト名: ATFN1. TEXT) -下線は入力を示す

LOGON TSS Fxxxx P(ATF)

:

READY

EDIT ATFN1 TEXT

```
00010 @PL 30
00020 @LL 70
00030 @IN 0-4
00040 @DS ON
00050 ---- Advanced Text Formatter for science ----@BR
00060 1. A conversational system for editing
00061 and printing scientific papers.@BR
00070 2. Eleven kinds of useful commands
00071 for formatting the paper.@BR
00080 3. Sixty-five kinds of control words
00081 for editing paragraphs, tables, graphs,
00090 mathematical expressions, and chemical
00091 or physical formulae.@BR
00100 4. Four kinds of print types for printing on the NI
```

END SAVE

READY

① NLP FROM(ATFN1.TEXT) JOB(*)

② L...*....1....*....2....*....3....*....4....*....5

③ //FXXXXA JOB ,CLASS=B

NLPコマンドでは、ATFN1. TEXTの内容を日本語ラインプリンタ装置へ清書出力するバッチジョブを起動しますが、JOB文の生成を行いませんので、②が出力された後③のようにJOB文を入力してください。JOB文には、リージョンサイズの関係でBクラス以上のジョブクラスを指定して下さい。この後、出力要請をかけ、出力結果を受け取って下さい。

出力結果

----- Advanced Text Formatter for science -----

1. A conversational system for editing and printing scientific papers.
2. Eleven kinds of useful commands for formatting the paper.
3. Sixty-five kinds of control words for editing paragraphs, tables, graphs, mathematical expressions, and chemical or physical formulae.
4. Four kinds of print types for printing on the NLP.

<ATF命令について>

- @PL.....ページの行数
- @LL.....ページの桁数
- @IN.....桁下げの桁数
- @DS ON.....清書出力を1行おきに出力
- @BR.....強制改行

ATF命令にはその他いろいろありますが、詳しい説明は下記マニュアルを御参照下さい。

1. FACOM ATF 解説書 (英論文編集清書システム)
2. FACOM ATF 使用手引書 (英論文編集清書システム)

この例のATF入力データは、英小文字の使用できる端末で作成しています。しかし、英大文字、英小文字を指定するATF命令がありますので、英小文字の使用できない端末(センターの第1TSS端末室の装置)で英大文字のみを使用しても、英小文字のATF清出力を得ることができます。

7. TACライブラリについて

TACライブラリは、高級言語（FORTRAN, COBOL等）で作成するには困難な機能や、高級言語で直接利用できないマクロ命令などの機能を高級言語で作成したアプリケーションプログラムから利用できる様にしたライブラリで「基本ライブラリ」、「サービ斯拉イブラリ」、「制御ライブラリ」、「端末入出力ライブラリ」及び「データセットライブラリ」の5種類に分類されています。

次にライブラリ一覧を示します。

表1 基本ライブラリ一覧表（続く）

ライブラリ名 (ロードモジュール名)	入口点名 (呼出し名)	機能概要
QALTER	QALTER	キーワード文字列で囲まれたテキスト文字列の変更を行う。
QAND	QAND	バイト単位に論理積をとる。
QANUCK	QANUCK	文字列が英数字か調べる。
QAPHCK	QAPHCK	文字列が英字か調べる。
QBDCNV	QBDCNV	2進数整数をバック形式の10進数に変換する。
QBECNV	QBECNV	2進数整数をEBCDIC数値列に変換する。
QBIT	QBITOF	ビットのオフ操作を行う。
	QBITON	ビットのオン操作を行う。
QBITBL	QBITBL	ビット単位のブール演算を行う。
QBITCK	QBITCK	ビットのオン/オフ状態を調べる。
QBITCP	QBITCP	ビット単位の比較を行う。
QBITMV	QBITMV	ビット単位の転送を行う。
QBITNO	QBITNO	オンビットの数を調べる。
QBNKCK	QBNKCK	文字列が空白か調べる。
QBSRCH	QBSRCH	32ビット構成のキーワードの検索を行う。
QCHANG	QCHANG	文字列の変更を行う。
QCOMP	QCOMP	文字列の比較を行う。
QDBCNV	QDBCNV	バック形式の10進数を2進数整数に変換する。
QDBLNK	QDBLNK	文字列から空白のみ消去する。
QDMPET	QDMPET	連続領域を、ダンプ出力形式に変換する。
QEBCNV	QEBCNV	EBCDIC数値列を2進数整数に変換する。

表1 基本ライブラリー一覧表 (続き)

ライブラリ名 (ロードモジュール名)	入口点名 (呼出し名)	機 能 概 要
QEOR	QEOR	バイト単位に排他的論理和をとる。
QERROR	QERROR	
QERR01	QERR01	
QEXCNV	QEXCNV	16進表現のEBCDIC数値列を2進数整数に変換する。
QFIELD	QFIELD	文字列を、空白を区切り記号にして任意の数のフィールドに分ける。
QINDEX	QINDEX	文字列よりキーワードを捜す。
QMOJCK	QMOJCK	文字列がキーワード文字列と一致するか調べる。
QNUCHK	QNUCHK	文字列が数値列として正しいものか調べる。
QOR	QOR	バイト単位に論理和をとる。
QPCKUP	QPCKUP	キーワードに囲まれた文字列を取出す。
QSBSTR	QSBSTR	バイト単位の転送を行う。
QSETLR	QSETLR	文字列を指定位置に右詰め又は左詰めで格納する。
QXECNV	QXECNV	2進数整数を16進表現のEBCDIC数値列に変換する。
QXFILD	QXFILD	文字列を、指定区切り記号に従い任意の数のフィールドに分ける。
QXINDX	QXINDX	文字列より存在するすべてのキーワード文字を捜す。

表2 端末入出力ライブラリー一覧

ライブラリ名 (ロードモジュール名)	入口点名 (呼出し名)	機 能 概 要
¥ANSWR	¥ANSWR	継続指定を許した、端末からのデータ入力を行う。
¥DUMP	¥DUMP	領域ダンプを端末に出力する。
¥STSI Z	¥STSI Z	端末の論理行サイズを変更する。
¥TGET	¥TGET	端末からデータ入力を行う。
¥TPG01	¥TPG01	
¥TPG05	¥TPG05 ¥TPG06 ¥TPG07 ¥TPG08	
¥TPUT	¥TGET	端末へのメッセージ出力を行う。
¥TPUTG	¥TPUTG	端末へ促進メッセージを出力し、返答データを端末から入力する。
T¥ATTN	T¥ATTN	アテンション出口の登録、削除を行う。
TYCLOS	TYCLOS	端末入力ライブラリの終了処理を行う。
T¥PUT	T¥PUT T¥PUT1 T¥PUT2	端末又はSYSOUTへのメッセージ出力を行う。(EDITモード) 端末又はSYSOUTへのメッセージ出力を行う。(ASISモード) 宛先指定でメッセージを端末に出力する。
T¥PUTG	T¥PUTG	端末又はSYSOUTへ促進メッセージを出力し、返答データを端末又はSYSINから入力する。
T¥TYPE	T¥TYPE	端末のタイプや属性を取り出す。

表3 サービスライブラリー一覧

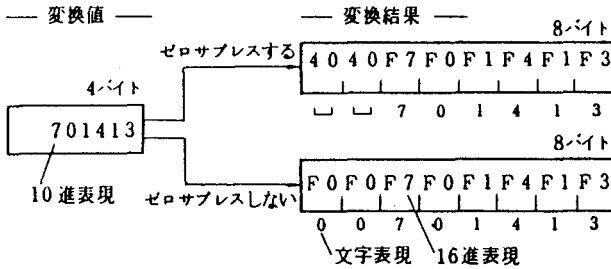
ライブラリ名 (ロードモジュール名)	入点名 (呼出し名)	機能概要
¥ABORT	¥ABORT	ABENDマクロ命令を発行し、タスクを異常終了する。
¥BLNKC	¥BLNKC	文字列の後部の連続した空白を消去する。
¥LMDLT	¥LMDLT	DELETEマクロ命令により、ロードモジュールを消去する。
¥LMLOD	¥LMLOD	LOADマクロ命令により、ロードモジュールをローディングする。
¥RECFM	¥RECFM	ビット表現のレコード形式を文字表現にする。
¥STORE	¥STORE	領域の初期クリアを行う。
¥TIME	¥TIME	日付と時刻を得る。
¥WTOLG	¥WTOLG	行先がSYSOUTのWTOマクロ命令を発行する。
CKYDSN	CKYDSN	データセット名の正当性をチェックを行う。
FR¥MAN	FR¥MAN	仮想記憶領域の返却を行う。
GT¥MAN	GT¥MAN	仮想記憶領域の動的確保を行う。
IO¥SUB	¥OPEN	データセットをオープンする。
	¥CLOSE	データセットをクローズする。
	¥TCLOS	データセットを一時クローズする。
	¥READ	レコード単位の入力を行う。
	¥WRITE	レコード単位の出力を行う。
	¥BREAD	ブロック単位の入力を行う。
	¥BWRIT	ブロック単位の出力を行う。
	¥FIND	メンバへの位置付けを行う。
	¥GDTRY	メンバ名を取り出す。
	¥STOW	メンバの登録、置換え、削除及び変更を行う。
	¥BSP	1ブロック前へ位置づける。
	¥NOTE	ブロックの相対位置情報を取り出す。
¥POINT	ブロックの相対位置情報に基づき、ブロックの位置付けを行う。	
LM¥ATT	LM¥ATT	子タスクを生成する。
LM¥CHK	LM¥CHK	ロードモジュールの存在有無を調べる。
LM¥JMP	LM¥JMP	ローディングしたロードモジュールに分岐する。
LM¥LDG	LM¥LDG	ロードモジュールのローディングと実行と消去を行う。
LM¥LNK	LM¥LNK	ロードモジュールをリンクする。
LM¥LOD	LM¥LOD	ロードモジュールのローディングや消去を行う。
MSG¥MV	MSG¥MV	メッセージプールよりメッセージを取り出す。
TS¥FLG	TS¥FLG	TSSの制御下か調べる。
TS¥UID	TS¥UID	ユーザ登録名を取り出す。

表4 制御ライブラリ一覧

ライブラリ名 (ロードモジュール名)	入口点名 (呼出し名)	機能概要
TSSYCM	TSSYCM	共通ライブラリ用の制御テーブルが定義されている。
TSSYER	TSSYER	共通ライブラリ用のエラー出力を行う。
TSSYIN	TSSYIN	制御テーブルの初期設定を行う。

(使用例)

2進数整数(701413)をEBCDICコードの数値列に変換する。



```
CALL QBECNV (I1, I2, I3, I4 [, I5])
```

- I1: 変換された結果が返えされる領域
- I2: 変換結果格納バイト位置(先頭 1)
- I3: 変換結果格納バイト長
- I4: 変換値
- I5: ゼロサプレス指示サイン(0 ゼロサプレス, 0以外 ゼロサプレスしない)

FORTRANプログラム例

```
CHARACTER*8 I1
I2=1
I3=8
I4=701413
CALL QBECNV(I1,I2,I3,I4,9)
WRITE(6,1) I1
1 FORMAT(1H ,A8)
STOP
END
```

詳細は下記マニュアルを参照して下さい。

「FACOM OSIV/F4 TAC/LIB解説書」

8. ジョブの状態表示について

ジョブの終了時刻（ターンアラウンドタイム）、およびTSSの使用端末数を表示するコマンドに、「STATEコマンド、@STコマンド」があります。御利用下さい。

使用例1. (ジョブの終了状態、TSS使用端末数)

READY

STATE

```
JDE136I TIME=14.20.34 DATE=85.02.06
JDE327I USERS=0024 ----- ①
*** PROCESSING ANS (A--06'TH 14:17 B--06'TH 14:20 C--06'TH 13:15) ----- ②
```

① TSSの使用端末は、24台である。

表示された時刻の受け付けジョブが、現在終了していることを表わしている。

② クラス別ジョブの終了した日と、時刻を表わす。

Aジョブ…14:17, Bジョブ…14:20, Cジョブ…13:15

使用例2. (ジョブの待ち状態)

READY

@ST

WAITING 2 JOBS ON B CLASS CN(11)

WAITING 1 JOBS ON F CLASS CN(11)

Bクラスに2件、Fクラスに1件の実行待ちジョブがあり、その他のクラスには実行待ちジョブが無い。

9. 磁気テープ利用TSSコマンドについて

磁気テープへの書き込み処理をした後、書き込まれたデータの確認の為に、次のコマンドを作成しましたので御利用下さい。

1) @MTLISTコマンド

磁気テープ上のボリューム名、データセット名、順序番号等をリストアップする。

<入力形式>

READY

@MTLIST

コマンド入力後、会話型リモートバッチジョブ（JOB識別名：L）が起動され、コンソールへ磁気テープのマウントメッセージが表示されます。

マウントメッセージに従い、磁気テープをセットします。その後は、デマンド出力ジョブと同じです。

<出力例>

```
FACOM OSIV/F4 SYSTEM UTILITY                -MTLIST-                DATE=85.07.12
      TAPE LABEL INFORMATION      VOLUME = U00005
ER=U00005,LABEL=(0001,SL),DCB=(RECFM=VS,BLKSIZE=01220,LRECL=01216),DSN=ACTLM.LOAD
ER=U00005,LABEL=(0002,SL),DCB=(RECFM=F ,BLKSIZE=00768,LRECL=00768),DSN=ZUKEI.DATA
```

2) @MTDUNPコマンド

磁気テープ上に書き込まれているデータの内容を、16進コード及び文字型でリストアップする。

<入力形式>

READY

@MTDUMP N(X)

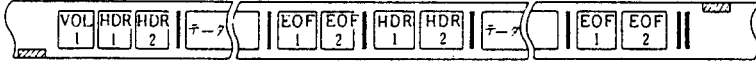
Xは、データ順序を10進数で指定する。

但し、標準ラベル形式（LABEL=SL）の磁気テープは、下図の構成になっており、見出しラベルや終わりラベルもデータと見なされますので、データ順序番号の指定に御注意下さい。

ノンラベル形式（LABEL=NL）では、データのみで構成されているので、データ順序の通りです。

コマンド入力後は、@MTLISTコマンドの場合と同様です。

磁気テープボリューム上のラベル構成



パラメータ N (1) N (2) N (3) N (4) N (5)

<出力例>

```

** OSIV/F4 MTDUMP **
HEX DEC
0640 001600 40404040
0660 001632 40404040
0680 001664 40404040
06A0 001696 40C7D640
06C0 001728 40404040
06E0 001760 40404040
0700 001792 40404040
0720 001824 40404040

VO1L02 DATE 85.07.12 TIME 15.22.05
4DD15D6B F25D4040 *
40404040 40404040 *
4DD14BD5 C54BC95D *
40404040 40404040 *
FOFOFOFO FOF2F2FO *
40E3D640 F2F04040 *
40404040 40404040 *
4DD14BC5 DB4BC9C8 *

PAGE 0002
CALL FLCT(PX(J),PY(J),2) *
00000210 IF(J.NE.I) *
GO TO 20 *
00000220 *
IF(KKK.EQ.IHEN) GO TO 20 *
IF(J.EQ.IH) *
    
```

10. 私信メッセージの送信コマンドについて

ほかのTSSユーザに、私信メッセージを送信するコマンドに「SENDコマンド」があります。これは、相手がLOGON中にただちに送信する場合と、LOGONコマンドによりセッションを開設した時に出力される場合とがあります。この機能によりコンピュータを使った簡単なMAIL処理を行うことができます。

<入力形式>

コマンド	オペランド
SEND SE	'メッセージテキスト', USER (課題番号. . .), [NOW LOGON SAVE]

User. . . メッセージを送信する相手のユーザ課題番号. 20課題まで

NOW. . . . 即時に送信

Logon. . 即時に送信を指定. 但し、相手がLOGON中でない時は、
メッセージは保存され、次のLOGON時に出力される

Save. . . 即時に送信しないでメッセージは保存され、次のLOGON
時に出力される

<使用例>

課題番号Fxxxxxの人へメッセージ「ショクジ ニ イキマショウ」を、即時に送信する。

READY

SEND 'ショクジ ニ イキマショウ', USER (FXXXX), NOW

送信相手(FXXXX)が使用中でないときは、次のメッセージが表示されます。

USER(S) FXXXX NOT LOGGED ON, MESSAGE CANCELED

送信相手が使用中の時は、ENTERキー(RETURNキー)が押下された直後に送信メッセージが出力され、末尾に発信者の課題番号も出力されます。また、数行にわたるメッセージを送信する場合は、コマンドプロシジャでメッセージテキストを作成してから送信すると便利です。以下に、その例を示します。

使用例

(コマンドプロシジャのデータセット名A.CLISTとする)

EDIT A CLIST

```
010 SEND '-----',USER(FXXXX),NOW
020 SEND '-- ZEMI NO KAISAI NI TUIE -----',USER(FXXXX),NOW
030 SEND '--- 14:00 KARA 17:00 MADE -----',USER(FXXXX),NOW
040 SEND '--- DAI 123 KYOUSITU NI OITE -----',USER(FXXXX),NOW
050 SEND '-----',USER(FXXXX),NOW
.
.
.
```

EDIT

END SAVE

READY

EX A

11. グラフィックディスプレイ装置の利用について

現在、作図処理においてはXYプロッタ装置がよく使用されています。何回もプログラムの修正が必要になる場合には、図形をグラフィックディスプレイに表示しながら修正を行い、完成図をXYプロッタ装置かNLPに出力するようにすれば効率よく図形処理ができます。

例 PSPを組み込んだFORTRANプログラムを実行して出力した図形データを、グラフィックディスプレイ上に表示する。

(1) プログラムの作成

```
DIMENSION X(903),YS(903),YC(903),Y(903)
CALL PLOTS(0.,0.,16,'EXAMPLE')
CALL PLOT(10.,10.,-3)
RAD=3.141592653/180.
DO 10 ITH=1,901
X(ITH)=FLOAT(ITH-1)
YS(ITH)=SIN(X(ITH)*RAD)
YC(ITH)=COS(X(ITH)*RAD)
Y(ITH)=YS(ITH)+YC(ITH)
10 CONTINUE
CALL SCALE(X,25.,901,1)
CALL SCALE(YS,10.,901,1)
CALL SCALE(YC,10.,901,1)
CALL SCALE(Y,10.,901,1)
YSO=-YS(902)/YS(903)
CALL AXIS(0.,YSO,8H-->THETA,-8,25.0,0.0,X(902),X(903))
CALL AXIS(0.,0.0,8HF(THETA),8,10.0,90.0,Y(902),Y(903))
YS(902)=Y(902)
YS(903)=Y(903)
YC(902)=Y(902)
YC(903)=Y(903)
CALL LINE(X,YC,901,1,0,0)
CALL LINE(X,YS,901,1,0,0)
CALL LINE(X,Y,901,1,0,0)
CALL PLOTE(PSP)
STOP
END
```

①画面に表示する場合は、サブルーチンPLOTSで図形データセットのメンバ名（この場合は EXAMPLE）を指定する。

(2) TSSコマンドによる図形表示

```
READY  
ALLOC F(FT16F001) DA(TEST.GRAPH) NEW -  
DIR(1) SP(20 20) T ----- ①  
READY  
FORT77 PSP.FORT77 FIXED ----- ②  
FORTRAN 77 COMPILER ENTERED  
END OF COMPILATION  
END OF GO,SEVERITY CODE=0  
READY  
GDPGO TEST M(EXAMPLE) ----- ③  
GDP ENTERED
```

- ①新しく図形データセットTEST.GRAPHを作成する。既存のデータセットに機番16を割り当てる場合には、NEW以下のパラメータを省略する。
- ②ソースプログラムPSP.FORT77を実行して①で割り当てられた図形データセットTEST.GRAPHにメンバEXAMPLEで、図形データを格納する。
- ③GDPGOコマンドにより、図形データを画面に表示する。

01 EXAMPLE .XXXXXX.XXXXXX

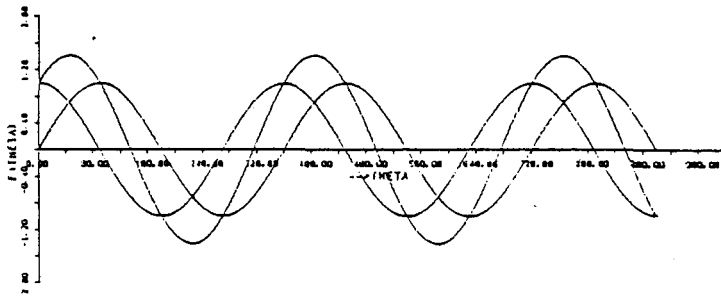


図1. PSPによる出力図

最後に ENDを入力して図形表示を終了する。

12. グラフィック端末におけるPFDコマンドの使用方法について

今回、センター2階、特殊端末室に設置しましたグラフィック端末装置で、PFDコマンドが使用できる様になりましたのでお知らせします。

F9434B端末(20インチ, カラー; 2台)の場合

```
READY  
PFDG J
```

F9431C端末(14インチ, モノクロ; 1台)の場合

```
READY  
PFDG A
```

上記のコマンドを投入すると、次の様なPFDの初期メニュー画面が出力されます。

```
-----< PFD PRIMARY OPTION MENU >-----  
OPTION ==>  
  
-----  
0 ATTRIBUTES - DEFINE PFD AND TERMINAL ATTRIBUTES      USERID - F0011  
1 BROWSE      - READ SOURCE DATA OR OUTPUT LISTINGS    TIME    - 15:33  
2 EDIT        - CREATE OR CHANGE SOURCE DATA           TERMINAL - F6650  
3 UTILITY     - PERFORM PFD UTILITY FUNCTIONS           PF KEYS - 24  
4 FOREGROUND  - COMPILE, ASSEMBLE, LINK EDIT, OR DEBUG IN FOREGROUND  KANA FEATURE - YES  
5 BACKGROUND  - SUBMIT JOB TO COMPILE, ASSEMBLE, OR LINK EDIT  
6 TSS         - EXECUTE TSS COMMAND OR CLIST UNDER PFD  
7 TEST        - TEST MENUS, MESSAGES, OR PROGRAMS  
H HELP        - GET INFORMATION ABOUT PFD  
X EXIT        - TERMINATE PFD USING LIST/LOG DEFAULTS  
  
-----  
PRESS END KEY TO TERMINATE PFD THROUGH PFD TERMINATION MENU
```

PFDGでJ又はA以外を入力した時はコードエラーとなり、下記のメッセージが表示されます。

***** CODE ERROR J OR A TYPE IN *****

尚、PFDの使用方法については「OSIV/F4 MSP PFD使用手引書」を参して下さい。

13. データセットの整理について

センターでは、1 課題当たりのデータセット使用量を3MB、20個までに制限しています。不要なデータセットは、早めに削除して下さい。個数が20個以上の場合は、区分データセットに複写し直すなど適当な処理を行って下さい。なお、データセットの確保量はDSL I S T コマンドで表示した場合、PHYSICAL SPACEにあたります。

【次にTSSによる処理例を示します。】

(1) データセットの未使用領域を解放し使用量を減らす。

```
(イ) Fnnnnn.ABC.FORTの解放
  READY
  RELEASE ABC.FORT
(ロ) Fnnnnn.DEF.FORTとFnnnnn.GHI.DATAを解放
  READY
  RELEASE (DEF.FORT GHI.DATA)
```

データセット名は先頭の課題名を除いたデータセット名すべてを指定する。

(2) データセットを削除する。

```
(イ) Fnnnnn.AAA.FORTの削除
  READY
  DELETE AAA
(ロ) Fnnnnn.BBB.FORT(A)の削除(区分データセット)
  READY
  DELETE BBB(A)
```

(3) 区分データセットに複写し直す

順データセット Fnnnnn.AAA.FORTを区分データセットFnnnnn.BB.FORT(AA)に複写する。

```
READY
COPY AAA.FORT BB.FORT(AA)
```

(4) 同一課題の不要領域を解放する。

同一課題すべてのデータセット中での不要領域を解放するTSSコマンドで

"@RELEASE"コマンドがあります。

使用例

```
READY  
@RELEASE  
Fnnnn.PS.DATA RELEASED  
KEQ5264OI CONDENSE PROCEEDING ~~~  
Fnnnn.PO.DATA RELEASED  
TOTAL RELEASE SPACE=10KB  
READY
```

但し、このコマンドの実行には、時間がかかりますので、なるべくセッション開始時に実行する様にして下さい。

14. TSSデータセット (DSPRINT) の利用について

データセットの内容を、直接プリンタ装置に出力する処理プログラム (DSPRINT) が使用できます。以下にDSPRINTの主な特長を示します。

- (1) TSS端末と同じ場所にあるプリンタ装置に、センターのラインプリンタに出力されるようになりリストが得られる。(印刷制御文字付きのデータセットの場合)
- (2) 複数のTSSユーザから、同時に同じプリンタ装置に出力依頼ができる。
- (3) 出力依頼したTSSユーザはプリンタ出力の開始/終了を待たずに、直ちに次のコマンドが入力できる。
- (4) データセットの内容の必要な部分を、編集 (行範囲, カラム範囲の指定) して出力することができる。
- (5) プリンタ装置に対する印刷 (1 ページの行数, 行間隔, 用紙の前後の空白行数) の指定ができる。

DSPRINTを使用する時、出力先の“プリンタ装置名”を指定します。この“プリンタ装置名”とは、ホストコンピュータがその装置を識別できる様に決めた英字で始まる4文字の固有名のことです。

<センター内>

設置場所	プリンタ装置名	機種	出力文字種
第1 TSS端末室	I 8 0 1	PR	英数字, カナ
	I 8 2 1	PR	英数字, カナ
第2 TSS端末室	I 6 0 9	BGP	英数字, カナ, 漢字, 罫線
日本語端末室	I 6 0 8	OPR	英数字, カナ, 漢字, 罫線
特殊端末室	I 6 0 A	BGP	英数字, カナ, 漢字, 罫線
	I 0 2 B	PRs	英小文字

<センター外>

	設置場所	プリンタ装置名	機種	出力文字種
文	庶務部 人事課	T 3 F 7	OPR	英数字, カナ, 漢字, 罫線
	経理部 経理課	T 3 F 8	BGP	英数字, カナ, 漢字, 罫線
教	施設部 企画課	T 3 F B	BGP	英数字, カナ, 漢字, 罫線
	学生部 学生課	T 3 F A	BGP	英数字, カナ, 漢字, 罫線
地	教養部 事務部	T 3 F 9	NPR	英数字, カナ, 漢字
	教育学部 事務部	T 4 5 8	BGP	英数字, カナ, 漢字, 罫線
区	薬学部 事務部	T 4 5 B	BGP	英数字, カナ, 漢字, 罫線
	工学部 事務部	T 4 5 9	BGP	英数字, カナ, 漢字, 罫線
	水産学部 事務部	T 4 5 A	BGP	英数字, カナ, 漢字, 罫線
片 淵 地 区	経済学部 事務部	T 2 9 7	NPR	英数字, カナ, 漢字, 罫線
	附属図書館分館	T 2 9 6	OPR	英数字, カナ, 漢字, 罫線
坂 本 地 区 I	医学部 事務部	T 2 0 7	NPR	英数字, カナ, 漢字, 罫線
	附属図書館分館	T 2 0 6	OPR	英数字, カナ, 漢字, 罫線
坂 本 地 区 II	歯学部 事務部	T 4 6 7	NPR	英数字, カナ, 漢字, 罫線
	歯学部 電算室	T 4 6 6	OPR	英数字, カナ, 漢字, 罫線

DSPRINTの使用例

FORTRAN原始プログラム（データセット名：PROG.FORTに格納されているものとする）のプログラムリストを、プリンタ装置（プリンタ名：I801）に印刷する。

```
READY  
DSPRINT PROG.FORT I801  
REQUESTED QUEUED (#nnnnn) : #nnnnnはシステム発行の処理  
通番  
READY
```

詳しくは、下記マニュアルを参照して下さい。

FACOM OSIV/F4 TSSデータセットプリント(DSPRINT)使用手引書V01用

15. DSPRINTコマンドによる印刷依頼の状態表示について

「DSPRINTコマンド」入力後、「DSPOPERコマンド」を用いて、印刷状況の問い合わせができます。入力は次のとおりです。

入力形式

```
          データセット名  
          依頼番号  
          Q [ (プリンタ名) ]  
            (ALL)  
DSPOPER STATUS N [ (プリンタ名) ]  
                  (ALL)  
                  P [ (プリンタ名) ]  
                    (ALL)
```

データセット名： 内容識別修飾子まで含めて指定する。データセットが区分編成である場合は、メンバ名も指定する。

依頼番号： 依頼番号に対応する出力依頼の状況が表示される。

Q： 現在出力待ちとなっている出力依頼の数を知りたいとき指定する。

LLを指定するとすべてのプリンタに対する出力依頼の数が表示される。

N： 現在出力待ちとなっている出力依頼のユーザ登録名、依頼番号を知りたいときに指定する。

P： 出力依頼を行ったプリンタの状態を知りたいときに指定する。

16. 日本語文字（JEF漢字拡張漢字）の出力について

拡張漢字（JIS第1、JIS第2水準文字以外）を日本語ラインプリンタ装置へ出力させる場合には、次に示すようにDD文のパラメータに“DCB=(OPTCD=U)”を指定して、処理を行って下さい。

(例) DD名: FT06F001の場合

・バッチ処理

```
//GO.FT06F001 DD DSYOUT=0,  
//          DCB=(OPTCD=U,RECFM=UA,BLKSIZE=384)
```

・TSS処理

```
READY  
ATTR A OPTCD(U)  
READY  
ALLOC F(FT06F001) SYS(D) US(A)
```

17. 日本語ラインプリンタ装置 (F6715E2) への英小文字出力について

1階、オープン入出力室に設置している日本語ラインプリンタ装置 (F6715E2) には、英小文字を出力できます。出力させる場合、次に示す様に、DD文のパラメータに"UCS=SC2"を指定し、処理を行って下さい。但、この時、カタカナ文字は出力されません。

(例) DD名 : GO. FT06F001の場合

```
//GO.FT06F001 DD SYSOUT=A,UCS=SC2
```

(出力例)

```
abcdefghijklmnopqrstvwxyz
```

Main CPU	FACOM M-360
memory	16Mbyte
fixed disk unit	5.352 Gbytes(12sp)
magnetic tape	3 units 6250/1600 rpi
card & mark card reader	600 cards/min.
Japanese line printer	2 units 4000 line/min.
xy protter	1000 steps/sec.
CRT display terminal	66 units
keyboard printer terminal	4 units
Japanese CRT display terminal	53 units
Japanese printer terminal	17 units
Remote Station	4 station
Remote terminal	83 units
Graphic terminal	4 units
Image terminal	2 units

18. 日本語ラインプリンタ装置 (F6715E2) へのカタカナ小文字の出力について
1階、オープン入出力室に設置している日本語ラインプリンタ装置 (F6715E2)
には、カタカナ小文字も出力できます。

出力させる場合は、次に示す様に、DD文のパラメータに "UCS=SC3" を指定し、
処理を行って下さい。

(例) DD名 : GO. FT06F001の場合

```
//GO.FT06F001 DD SYSOUT=A,UCS=SC3
```

(出力例)

```
アイウエオカキクケコ   ラララララ   ヤヤヤヤヤ   ++++++   ABCD   12345
```

但し、出力例の様にUCS=SC3を指定すると、英小文字は出力できません。

19. オフィスプリンタ装置 (OPR) の使用について

事務局人事課、附属図書館経済学部分館、附属図書館医学分館、歯学部電算室にオフィ
スプリンタ装置を設置していますが、この装置は、通常のプリンタ装置 (連続用紙使用)
と比べ種々の点で使用上異なる所があります。

(1) DSPRINTコマンド使用時に用紙の選択ができます。

(オペランドに LA (A4), LA (B4) を指定)

(2) DSPRINTコマンドで図形出力ができます。

(使用の詳細は、次項へ説明する)

(3) COBOLプログラムにおいて、あらかじめ定めた形式 (フォーマット) で印刷す
ることができます。

又、画面のハードコピーをとる場合には、A4版の用紙のみをセットしてPRINT
キーを押下すれば、コピーが早くなります。

20. オフィスプリンタ装置 (OPR) への図形出力について

オフィスプリンタ装置には、文字ばかりでなく図形情報 (XYプロッタ情報) も出力させることができます。これは、XYプロッタへ出力する機番 (FORTRANの場合 FT16F001) をファイル (データセット) へ割り当てて、XYプロッタ出力ジョブを実行させて、DSPRINTコマンドでオフィスプリンタ装置へ出力させる方法です。

但し、図形情報のファイルを作成するためのFORTRANプログラムは、ロードモジュールの形式で実行させ、オペランドに 'PSP (NLP)' を指定します。

次に使用方法を示します。

使用例

・FORTRANプログラムソースリスト

(データセット名をFnnnn. XYP. FORTとする：標準形式)

```
00010 C
00020 C ***** PSP CIRCULAR POLYGON *****
00030 C
00040     DIMENSION IBUF(1024),PX(24),PY(24)
00050     IHEN=24
00060     SR=6.2831853/IHEN
00070     R=6
00080     DO 10 I=1,IHEN
00090         FI=SR*(I-1)
00100         PX(I)=R*COS(FI)+10.
00110         PY(I)=R*SIN(FI)+10.
00120 10  CONTINUE
00130     CALL PLOTS(IBUF,1024)
00140     IHLF=(IHEN-1)/2
00150     I=1
00160     J=1
00170     CALL PLOT(PX(I),PY(I),3)
00180     DO 30 L=1,IHLF .
00190         DO 20 KKK=1,IHEN
00200             J=J+L
00210             IF(J.GT.IHEN) J=J-IHEN
00220             CALL PLOT(PX(J),PY(J),2)
00230             IF(J.NE.I) GO TO 20
00240             IF(KKK.EQ.IHEN) GO TO 20
00250             IF(J.EQ.IHEN) J=0
00260             J=J+1
00270             I=J
00280             CALL PLOT(PX(J), PY(J),3)
00290 20  CONTINUE
00300 30  CONTINUE
00310     CALL PLOT(0.0, 0.0, 999)
00320     STOP
00330     END
```

このFORTRANプログラムのロードモジュールを作成する。

READY

FORT XYP FIXED OBJ(ABC)

LINK ABC LOAD(XYP(NO1)) FORTLIB

XYP. LOAD (NO1) を実行させ、図形情報データセットをZUKEI. DATAとし、
OPR装置：I 6 0 8のA 4版の用紙へ出力する。

READY

```
ALLOCATE F(FT16F001) DA(ZUKEI.DATA) NEW-  
CAT UNIT(PUB) SP(10 10) TR
```

READY

```
CALL XYP.LOAD(NO1) 'PSP(NLP)'
```

READY 饅

```
DSPRINT ZUKEI.DATA I608 LA(A4) DOC
```

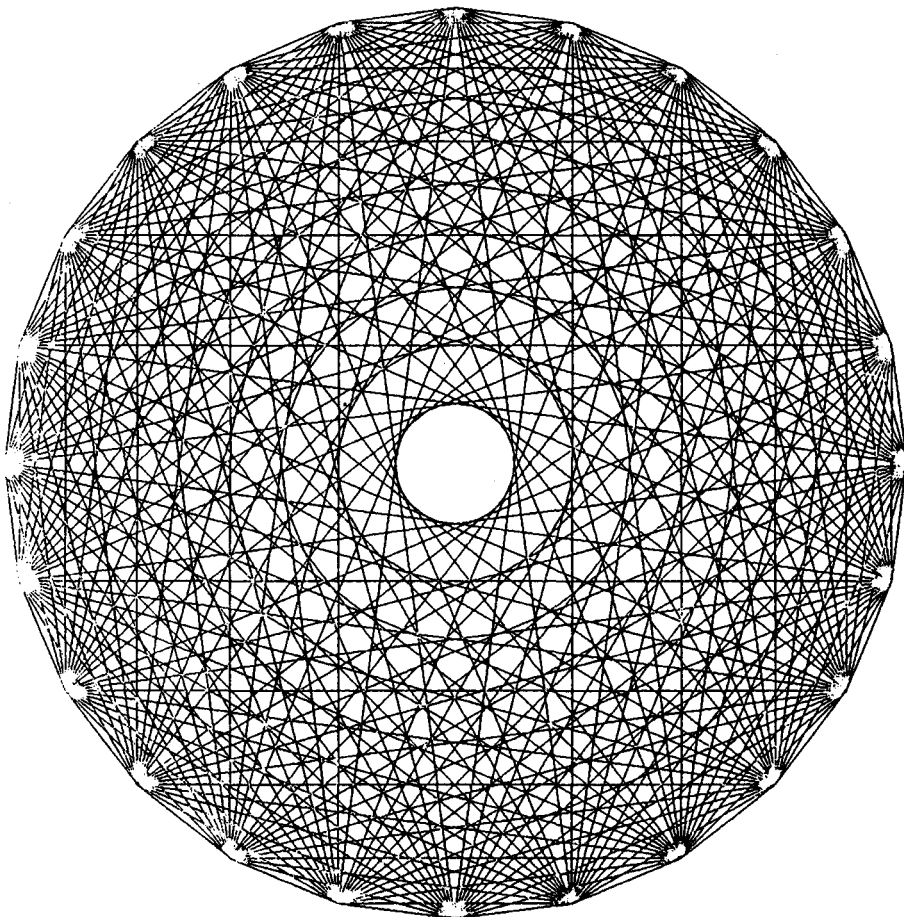
READY

注

(注：B 4版へ出力させる場合は、“B 4”とする。)

但し、現在のところオフィスプリンタ装置へ図形情報を出力させる場合、その情報量が
3 2 Kバイト以上になると、完全な形では出力できません。

<出力例>




~~~~~  
全国共同利用大型計算機センター広報物目次一覧

(1985年版)  
~~~~~

1.	北海道大学センターニュース	169
2.	東北大学大型計算機センターニュース	172
3.	東京大学大型計算機センターニュース	175
4.	名古屋大学大型計算機センターニュース	184
5.	京都大学大型計算機センター広報	189
6.	大阪大学大型計算機センターニュース	196
7.	九州大学大型計算機センター広報	200

1985 VOL. 17 NO. 1

巻頭言	有江 幹男	1
センターより		4
初心者向講座(42)		
初心者のためのSPSS入門(1)	盛山和夫・野口裕二・都築一治	5
データステーション紹介		
釧路工業高等専門学校のデータステーション	佐藤 昭彦	27
数式処理言語REDUCE 3.1(1)	戸島 熙	39
クラスター分析の利用について	丹後 俊郎	45

1985 VOL. 17 NO. 2

巻頭言	川島利兵衛	1
センターより		3
初心者向講座(43)		
初心者のためのSPSS入門(2)	盛山和夫・野口裕二・都築一治	4
研究会報告		28
第5世代コンピュータのソフトウェア	古川 康一	28
名大数学ライブラリーNUMPACについて	秦野 甯世	36
数式処理言語 REDUCE 3.1(2)	戸島 熙	55
データベース利用の手引		
遺伝情報のデータベース (HGEN) とその利用法	飯田 陽一	66
北大大型計算機センター利用による研究成果(59)		82

1985 VOL. 17 NO. 3

巻頭言	白濱 晴久	1
-----------	-------	---

センターより	2
研究会報告	
遺伝情報とグラフィクス	堀 寛 5
遺伝情報とデータベース (HGEN) と DNA塩基配列データの コンピュータ解析	飯田 陽一 22
数式処理言語 REDUCE 3.1(3)	戸島 照 34
プログラム相談票からみたトラブルの傾向と対策 (その1)	赤石 桂子 44
図形処理システムGRADASの紹介	上窪 功・永山 隆繁 58
昭和59年度北大大型計算機センター利用状況	68
大型センター利用による研究成果(60)	76

1985 VOL. 17 NO. 4

巻頭言	和田 武雄 1
センターより	2
数式処理言語 REDUCE 3.1(4)	戸島 照 3
REDUCEの使用経験	中村 隆志 18
データベース利用の手引	
放射線医療データベースの利用法	伊藤佐智子 25
SOARによる情報学文献情報データベースAIRISの構築	前田 隆 30
プログラム相談票からみたトラブルの傾向と対策 (その2)	赤石 桂子 49
大型センター利用による研究成果(61)	61

1985 VOL. 17 NO. 5

巻頭言	大野 公男 1
センターより	3
共通利用番号制の実施のお知らせ	4
データベース利用の手引	

農業経済統計データベース (ALTS) とその利用方法

..... 長南 史男, 阿部 順一, 伊藤 繁, 土井 時久	6
CP/M 86の端末制御プログラム (TOSS)	林 雄二 33
簡単・便利なアプリケーションソフトSASのすすめ (SAS/GRAPH編)	
.....	岸本 淳司 42
数式処理言語REDUCE 3.1(5)	戸島 51
利用 は何がしたいか	佐々木不可止 68
ライブラリ・プログラムの取扱いについて	谷口 博 71
センター利用による研究成果(62)	73

1985 VOL. 17 NO. 6

巻 頭 言.....	奥田 亨 1
センターより.....	2
VTAM (Virtual Telecommunication Access Method) のサービス予定.....	2
システムのレベルアップ.....	3
N-1ネットワークへのサーバ加入について.....	6
大型計算機センター群の動きについて.....	7
研究会報告	
VDT作業と健康問題.....	斎藤 和雄 9
文書化プログラミング入門.....	林 恒俊 19
簡単・便利なアプリケーションソフトSASのすすめ(2) (PROC MATRIX編)	
.....	岸本 淳司 27
中国の教育工学見聞記.....	中村 紘司 35
超大型計算の共同利用に関する共同研究.....	宮本 衛市・千葉 正喜 49
北大大型計算機センター利用による研究成果(63).....	62
〔付表 1〕所蔵雑誌一覧.....	図書資料室 63
〔付表 2〕テクニカル・レポート目次一覧.....	研究開発部 65

〔付表 3〕 北大センターのライブラリ・プログラム一覧	運用研究部	66
〔付表 4〕 アプリケーション・プログラム一覧	〃	70
〔付表 5〕 センター・ニュース索引		72
〔付表 6〕 「速報」の索引		74

東北大学大型計算機センター広報

VOL. 18 NO. 1 (1985年1月)

巻頭言	高橋 理	1
お知らせ		
昭和60年度計算機利用申請について		3
「センター便り」より		3
2次元デジタルフィルタによる画像処理		
—画像処理システムを利用して—	川又政征, 林 涛, 樋口龍雄	9
マイコン・ワープロで作った文書を		
大計センターのレーザ・プリンタで印刷する	曾根秀昭	15
報 告		
諸委員会報告		26
業 務 報 告		29

VOL. 18 NO. 2 (1985年4月)

巻頭言	高橋先生のご退官に際して	野口センター長	1
	高橋先生を送る言葉	内田, 安井, 桂, 城戸	2
お知らせ			
	初めてセンターを利用される方へ		10
	センター発行資料の日本語プリンタ出力		14
	60年度の講習会年間計画について		15

「センター便り」より	17
計算機利用と負担金	高橋 理 25
ハンドヘルドコンピュータと大型計算機をつなぐ	竹ヶ原 克彦 32
低速電子回折 (LEED) 写真の画像処理	藤 永 保 夫 36
プログラミング・ノート	
バッチジョブの自動生成コマンド "BRUN"	佐 藤 信 47
報 告	
諸委員会報告	50
昭和59年度講習会等開催報告	51
業 務 報 告	53
資 料	
プログラミング・ライブラリの使用法	— 関 京 子 58
プログラムライブラリ一覧	83
データベース一覧	115

VOL. 18 NO. 3 (1985年7月)

巻 頭 言	佐々木 康 之 1
お 知 ら せ	
「センター便り」より	2
東北大学大型計算機センターの未来像	
—創造性豊かな研究を生み出す計算機網の構築を目差して—	
栗山規矩, 鈴木陽一, 中島映至, 中村維男, 古坂道弘	12
量子化学文献データベース "QCLDB" の利用	小関史郎, 藤村勇一, 中島 威 21
ab initio分子軌道法プログラムJAMOL3の紹介	
田尻明男, 小波秀雄, 篠野昌弘, 野沢庸則, 小沼義弘	30
ACOS-TSSにおける漢字処理	
—パソコンを「漢字端末」に—	菊 地 和 聖 38

言語症状からの頭部断層写真 (CT) 像の予測合成	渡辺俊三, 北條 敬, 田崎博一, 佐藤時治郎	51
IAPの有効な使い方		
—高速FORTRANプロセッサでの利用—	関京子, 武田敏夫	58
利用者の声		
第2地区計算機利用協議会の活動		
—地区協がユーザの声を集めています—		76
地区協連絡会で集めたユーザの声		78
報 告		
諸委員会報告		79
業 務 報 告		81

VOL. 18 NO. 4 (1985年10月)

巻 頭 言	久 道 茂	1
お 知 ら せ		
共通利用番号制の実施のお知らせ		3
ACOS6 MVX R1.0へのリリースアップについて		4
「センター便り」より		19
東北大学大型計算機センターの未来像 (その2)		
—創造性豊かな研究を生み出す計算網の構築を目指して—		
栗山規矩, 鈴木陽一, 中島映至, 中村維男, 古坂道弘		27
イリノイ大学における計算機環境	堀 口 進	43
画像処理システムによる可視記録地震波形のデジタル化	森 田 裕 一	49
会話型画像処理システムISOPの新機能	松沢 茂, 小畑征二郎, 宮崎正俊	62
大型計算機の利用を自動ON/OFFさせる音響カプラーコントローラの製作		
—弘前大学構内回線からマルチプレクサを介しての利用—		
佐藤幸三郎, 荒木 喬, 三上秀秋		69

地区協コーナ

大型センターとユーザー（第二地区計算機利用協議会連絡会）との意見交換会	78
報 告	
諸委員会報告	81
昭和59年度研究開発課題報告	82
昭和60年度研究開発課題（公募）の採用について	84
昭和60年度プログラム相談員名簿	85
業 務 報 告	86
資 料	
メーカーマニュアル一覧	91

東京大学大型計算機センターニュース

VOL. 17 NO. 1 (1985年1月)

巻 頭 言

年頭の御挨拶	センター長 有馬朗人	1
センターより		
サービス休止等のお知らせ		2
システム変更等のお知らせ		3
オープンフロアの改修について		5
IAP研究会のお知らせ		9
計算機の継続利用申請手続きの変更について		10
昭和59年度計算機利用申請の取扱い等について		10
VAXの継続利用申請手続きの変更について		11
VAXの新規利用申請手続きについて		11
MINCの新規/継続利用申請手続きについて		12
「センターニュース」総目次（1984年分）		14

センター付プログラム指導員の募集について	19
月間ジョブ件数からみた連絡所ベスト40(11月)	21
11月のジョブ統計	22
昭和59年11月センター訪問者(視察・見学)	27
資 料	
APLの使用法	29
FORTRAN77プログラム動的解析ツール—FORDAP77— の使用について	40
パソコン端末	
パソコンを汎用端末機にするためのBASICプログラム	55
vi, GPSLが使える端末プログラム—Eterm—	63
 VOL. 17 NO. 2 (1985年2月)	
センターより	
助手の公募について	1
サービス休止等のお知らせ	3
システム変更等のお知らせ	4
新バージョンDRUNOFFの使い方	5
昭和60年度計算機利用申請の取扱いについて	7
利用者ロッカーの継続手続きについて	10
IAP研究会のお知らせ	11
月間ジョブ件数からみた連絡所ベスト40(12月)	12
12月のジョブ統計	13
昭和59年12月センター訪問者(視察・見学)	18
報 告	
英国ケンブリッジ大学 Computer Laboratory滞在記—その3—	20
資 料	

繰り返し計算を行なう長時間ジョブのためのファイル利用法	27
SPSS第6版の使い方(2) —京大版SPSS (KUSPSS) —	38
数式の清書出力—MATHEQ—	47
集積回路情報検索システム「ICDB」の使い方	74
APLユーザのみなさんへ (スクリーンエディタと クロスリファレンスツールの紹介)	80
スクロール・リージョンを用いたウィンドウの定義	103
アメリカの大学におけるワークステーションとネットワーク —再び拡大する日米格差—	106

VOL. 17 NO. 3 (1985年3月)

センターより

サービス休止等のお知らせ	1
システム変更等のお知らせ	2
オープンMTの開始・終了方法の変更と機能追加について	5
DEST (出力先識別子) の変更について	8
ユーザフロア改修後の運用について	9
利用者ロッカーの継続手続きについて	11
昭和60年度(前期) プログラムライブラリ開発計画の公募	12
月間ジョブ件数からみた連絡所ベスト40 (1月)	15
1月のジョブ統計	16

資 料

高次代数方程式について	21
スーパーコンピュータ向けプログラミング(2) —四次元行列の部分変数: F o c k 行列—	28
ドットプリンタへの図形出力ルーチン ALIS-P-DOT	34
電話網利用メイル・ネットワークの実験と国際アクセス	46

FORTRANのコメントやメイルは漢字でどうぞ.....	51
パソコン端末	
PC-100用テクトロニクスエミュレータ.....	54
スクリーンエディットとファイル転送の機能をもつ	
FM-8用端末プログラム.....	61
VOL. 17 NO. 4 (1985年4月)	
センターより	
サービス休止等のお知らせ.....	1
システム変更等のお知らせ.....	2
FORTRANのコンパイルオプションの標準値変更について.....	5
V-22規格モデムによるTSSサービスの開始について.....	6
DEST (出力先識別子) の変更について.....	7
各種講習会のお知らせ.....	8
利用負担金について.....	10
利用者ロッカーの整理について.....	10
昭和60年度センター付プログラム指導員分野別	
スケジュール表.....	11
「センターニュース」に掲載されたコマンド解説記事の一覧.....	12
VOS3システムの主なコマンドと使い方.....	14
VOS3関係の日立発行マニュアル一覧.....	20
VOS3&UNIX関係の外部発行マニュアルと書籍.....	24
月間ジョブ件数からみた連絡所ベスト40 (2月).....	27
2月のジョブ統計.....	28
センターの人事異動.....	33
昭和60年1月~3月センター訪問者 (視察・見学).....	34
資 料	

初めてセンターシステムを使われる方へ	35
Vi, GPSLが使える端末プログラム(2) —C版E t e r m—	46
VDTと眼精疲労について	57
ライブラリ・リスト	61

VOL. 17 NO. 5 (1985年5月)

センターより

センター長就任にあたって	1
各種講習会のお知らせ	2
システム変更等のお知らせ	3
LB PLOTのサービス	4
FCOPYコマンドの機能追加について	6
昭和60年度文部省科学研費補助金による計算機利用 申請等の取扱いについて	10
研究会の公募について	11
プログラムライブラリMSL2のバージョンアップについて	13
新規登録ライブラリプログラムの解説書の発行について	16
昭和60年度連絡所付プログラム指導員名簿	18
月間ジョブ件数からみた連絡所ベスト40(3月)	20
3月のジョブ統計	21

ユーザより

統計プログラム・パッケージ研究会からのお知らせ	26
-------------------------	----

報 告

英国ケンブリッジ大学 Computer Laboratory滞在記—その4—	28
--	----

資 料

ファイルのやさしい使い方	31
FORTTRANのコンパイラオプションについて	42

数量化手法のSASによる実行	52
----------------	----

VOL. 17 NO. 6 (1985年6月)

センターより

システム変更等のお知らせ	1
FILEコマンドの機能変更	2
昭和60年度文部省科学研究費補助金による計算機利用 申請等の取扱いについて	3
利用者旅費制度について	4
昭和60年度(前期)プログラムライブラリ開発計画	5
月間ジョブ件数からみた連絡所ベスト40(4, 5月)	7
4, 5月のジョブ統計	9
昭和60年4月センター訪問者(視察・見学)	15

資料

TSS入門	17
TSSによるFortran入門	38
RJEを利用するためのコマンドの使い方	51
qed エディタの使い方	70
CPU時間の消費の分布を発見するためのサブルーチン	94
REDUCEにおける上つきおよび昇べきの出力	99

VOL. 17 NO. 7, 8 (1985年8月)

センターより

高橋秀俊初代センター長を悼む	1
サービス休止等のお知らせ	5
システム変更のお知らせ	6
「M-280H FORTRANにおける拡張リージョンの使い方」	8

各種講習会のお知らせ	11
TSS端末室の利用時間延長について	12
網間接続によるTSS利用サービスの開始について	13
データベースENGの利用負担金変更について	16
バーサテックプリンターへの図形出力コマンドV PLOT	17
センターニュース目次検索	19
昭和60年度(後期)プログラムライブラリ開発計画の公募	22
昭和60年度センター付プログラム指導員専門分野別スケジュール表	25
いよいよ始ったアメリカやヨーロッパとの電子メール交換	27
月間ジョブ件数からみた連絡所ベスト40(6,7月)	31
6,7月のジョブ統計	33
昭和60年5~6月センター訪問者(視察・見学)	39
センターの人事異動	40
報 告	
すさまじいアメリカのコンピュータ・パワー	41
資 料	
SAS/GRAPHの使い方	47
SAS/GRAPHのLBP出力	65
PC9800用市販通信ソフトウェア(PCOM98)の使い方	67
FCONVERTコマンドの機能追加について	70
スーパーコンピュータ向き線形漸化式の解法について	83

VOL. 17 NO. 9, 10 (1985年10月)

センターより

利用者旅費による出張計画書の提出について	1
共通利用番号制の実施のお知らせ	3
「利用の手引」をプリンタ出力するMANUALコマンドの公開	5

ライブラリプログラムCHARGEシステムの公開について.....	7
月間ジョブ件数からみた連絡所ベスト40(8,9月).....	8
8,9月のジョブ統計.....	10
昭和60年7~8月センター訪問者(視察・見学).....	16
ユーザより	
第17回IAP研究会のお知らせ.....	17
報 告	
NCAR訪問記.....	18
パソコン端末	
モデムの内蔵電話,1200BPSの漢字対応,自動ログオン	
および第2種パケット交換を考慮した通信プログラム.....	22
資 料	
M280H上での大型プログラムの実行の仕方について.....	35
初心者のためのSPSS入門(基礎編).....	38
unix上の英文清書troffの使い方.....	60
日本語文書拡大出力用POSTERコマンドの使い方.....	82
結晶内電荷分布解析プログラム(CHARGEシステム)について.....	89
ガウス型基底ab initio SCF計算プログラム「GSCF」のやさしい使い方(4)	
—スーパーコンピュータ向けプログラム「GSCF3」の公開について—	91

VOL. 17 NO. 11 (1985年11月)

センターより

年末年始のサービスについて.....	2
LB PLOTの機能拡張について.....	3
研究会の御案内.....	6
ライブラリプログラムのバージョンアップについて.....	7
昭和60年度(後期)プログラムライブラリ開発計画.....	17

月間ジョブ件数からみた連絡所ベスト40 (10月)	18
10月のジョブ統計	19
昭和60年9月センター訪問者 (視察・見学)	24

資 料

ROFFの機能強化 (EROFF—extended roff)	25
UNIXシステムの動向	53
C言語の特徴について	59
橋爪博士のよくわかるC言語の型の判別法	66
大型機 (VOS3) 上のC言語の使い方	73
大型機 (VOS3) 上のUNIXツール	96
VAX/UNIXコマンドマニュアルのLBP出力の仕方	110
KCL (Kyoto Common Lisp) の紹介	111

VOL. 17 NO. 12 (1985年12月)

センターより

訃 報	1
弔 辞	2
弔 辞	3
年未年始のサービスについて	4
共通利用番号制への移行と昭和61年度の利用申請について	5
システム変更等のお知らせ	9
昭和60年度の計算機利用申請期限 及び科学研究費による利用期限等について	10
プログラムライブラリMSL2のバージョンアップについて	11
センター付プログラム指導員の募集について	14
データベースCAS, IEE, ENGの 利用負担金変更とデータベースEIMの利用負担金について	16

東大センターもワークステーションとLANの時代へ	18
月間ジョブ件数からみた連絡所ベスト40(11月)	19
11月のジョブ統計	20
昭和60年10月センター訪問者(視察・見学)	25
報 告	
哲学者のためのデータベース研究会—第一回研究会報告—	26
資 料	
NCARLライブラリ・コマンドの変更	30
NCARLライブラリFFTPACKの改訂について	32
ファイル転送のためのKermit方式について	36
汎用ファイル転送プログラムKermitの使い方	43
核種生成崩壊計算コード「ORIGEN2」の使い方	48
ライブラリリスト	55

名古屋大学大型計算機センターニュース

VOL. 16 NO. 1 (1985年2月) 65号

巻 頭 言

総合研究支援システムを目差して……………吉田 将 1

センターより

お 知 ら せ…………… 3

報 告

1. 各委員会経過…………… 12
2. 講習会等開催…………… 13
3. 業 務 報 告…………… 14

解 説

1. 日本語情報システムJEFのレベルアップについて—ODM入門—

.....津田知子	17
2. NUMPACスーパー・コンピューター版	
.....二宮市三, 秦野甯世	52
投 稿	
1. EDIT-FSOに準じたパソコン用フルスクリーン・エディター	
.....山田和夫	68
2. My Fair Reduce	
.....龍岡亮二, 乙藤岳志	88
講 演	
高度情報社会とINS	井深次郎 122
利用者の声	
センターに寄せられた質問・要望から	133
附 表	
1. 利用者論文一覧	135
2. カタログド・プロシジャー一覧表	148
3. コマンド・プロシジャー一覧表	154
編 集 後 記	159

VOL. 16 NO. 2 (1985年5月) 66号

論 壇	
話すことと書くこと	二宮市三 161
センターより	
1. お知らせ	163
2. プログラム相談だより	172
報 告	
1. 名古屋大学大型計算機センター協議員及び運営委員会委員	174
2. 昭和60年度ライブラリー・プログラム開発課題	175

3. 各委員会経過	176
4. 講習会等開催	176
5. 業務報告	178
解 説	
1. ロード・モジュールの動的管理用サブルーチン・パッケージ	岡 部 直 木 182
2. UTILISPの使い方	長谷川 明 生 208
投 稿	
1. パソコンワープロと大型計算機のワープロのデータ変換	伊藤義人, 安藤八郎 218
2. マイコンとホスト・コンピューター間の汎用ファイル 転送ユーティリティ	窪田衛二, 窪田 誠 231
利用者の声	
センターに寄せられた質問・要望から	254
附 表	
1. ライブラリー・プログラム一覧表	256
2. ライブラリー・データ一覧表	271
編 集 後 記	272

VOL. 16 NO. 3 (1985年8月) 67号

論 壇

ライブラリー・データベース雑感	鳥 脇 純一郎 273
センターより	
お 知 ら せ	275
報 告	
1. 昭和59年度名古屋大学大型計算機センターの決算	296
2. 各委員会経過	296

3. 講習会等開催	297
4. 業 務 報 告	298

解 説

1. 大学間コンピューター・ネットワークの利用法について	岡 部 直 木 305
2. センターにおける利用情報	
—センターの案内システムGUIDEの紹介—	
津田和子, 秦野甯世, 福田典正, 浦部達夫	350
3. リフレッシュ型カラー・グラフィック・ディスプレイ	
(T4115B) について	宮 地 弥 生 358
4. IGLの紹介	川 田 良 文 372
5. 原稿のます目にあわせた日本語清書システムSEISHOについて	
伊 藤 義 人	395

投 稿

1. FASL-Reduce 3の第三のファイル	龍岡亮二, 乙藤岳志 424
2. EDIT-FSOが使用できるパソコン用ON LINE	
フルスクリーン端末ソフト	山 田 和 夫 432
3. FM7, FM11による2400bpsリアルタイムで	
PFD及びファイル転送が可能なTSSエミュレータ	
戸 谷 得 之	453

附 表

1. カタログド・プロシジャー一覧表	475
2. コマンド・プロシジャー一覧表	481
編 集 後 記	486

VOL. 16 NO. 4 (1985年11月) 68号

論 壇

パソコンと計算機センター	北橋忠宏	487
センターより		
1. お知らせ		489
2. 共通利用番号制の実施のお知らせ		496

報 告

1. 昭和60年度ライブラリー・プログラム開発課題(追加)		498
2. 各委員会経過		498
3. 講習会等開催		498
4. 業務報告		500

解 説

1. 画像データ管理システムと画像データベース	岡部直人	504
2. カラー画像の高速作画ルーチンQUPID2	瀬川午直	520
3. 不規則分布データの自動格子化	山本明彦	532

利用者向け講座

UTILISP入門(その1)	太田義勝	566
----------------	------	-----

投 稿

スクリーンエディット, ファイル転送, プリンターへのエコーバック機能をもつ 端末制御プログラム(TCPC1) —FMシリーズ(FM.7, 8, 11)共用—	横山辰夫, 池山雅美, 赤枝健治	578
--	------------------	-----

利用者の声		591
-------	--	-----

附 表

1. TSS端末機器一覧		594
2. ライブラリー・プログラム一覧表		605
3. ライブラリー・データ一覧表		615

索引	617
編集後記	621

京都大学大型計算機センター広報

VOL. 18 NO. 1 1985 (2月)

センターより

<運用関係>

昭和60年度の利用申請の受付について	1
昭和60年度開発計画の公募について	1
ICADの運用について	2
音声応答システムのサービス業務の追加について	2
個人データベースにおけるサンプル・データの運用について	2
マッピング空間解析システムODYSSEYの試験運用について	2
新しいアプリケーション・プログラムの運用について	2
交換回線でTSSを利用する時の注意	3
「オンライン・データベース利用ガイド(第4版)」の発行について	3

<システム関係>

データベースの運用変更について	4
SASの機能追加について	4
プロシジャの新設	5

解説

音声応答システムについて	桶谷猪久夫, 山元 伸幸, 金澤 正憲	8
AIM/RDBを用いた個人データベースの構築	村尾 義和, 渡辺 豊英, 堀池 博巳, 小澤 義明	15
原子力科学(京大炉関係)文献データベース—KURRIP—	武内 孝之, 木村 逸郎, 水間 満郎	28

研究・開発のページ

ライブラリ・プログラムの紹介(57)——AECONV (コード変換プログラム) ——

..... 植木 徹, 平野 彰雄 37

利用者のページ

ベクトル計算機試用報告について 島崎 眞昭 43

報 告

事務報告 45

京都大学大型計算機センターシステム変更報告 47

資 料

リモート・ステーション一覧 48

NUMPAC一覧 50

編集後記 56

VOL. 18 NO. 2 1985 (4月)

巻 頭 言

センターにおける研究開発について 星野 聰 57

センターより

<運用関係>

ジョブクラス制限値の変更について 58

データベースPOLEMのサービス開始について 58

フライング・スポットスキャナ (FSS) の運用について 58

デジタル交換機経由によるTSSサービスのお知らせ 59

ライブラリ・プログラムAECONV旧版の廃止について 59

利用の手引きについて 59

昭和60年度プログラム相談員について 60

<システム関係>

日本語プリンタ (NLP) への図形出力について 63

プロシジャの新設と変更	63
解 説	
SASの追加機能	高井 孝之, 高見 好男 65
AIM/RDBを用いた個人データベースの構築(2)	村尾 義和, 渡辺 豊英, 堀池 博巳, 小澤 義明 74
研究・開発のページ	
VPを使った水及び水溶液の計算機実験-II	片岡 洋右 82
利用者のページ	
第22回グラフィックス・セミナー報告	86
報 告	
事務報告	87
資 料	
図書資料室案内	89
ジョブ種別一覧	95
利用負担金の算定方式	96
共同データベース一覧	97
編集後記	99

VOL. 18 NO. 3 1985 (6月)

センターより

<運用関係>

プログラム相談室の開室時間について	101
昭和60年度プログラム相談について	101
開発計画(昭和60年度第1期分)一覧	101
カード保管棚・磁気テープ保管庫の利用について	104
カラー・ハードコピー装置の運用について	104

<システム関係>

TSSセッションのキャンセル方法について	106
日本語プリンタの出力形式について	106
NUMPACのソース・リスト出力について	106
コマンド・プロシジャの新設	106
解 説	
日本語プリンタによる多種類の文字パターン出力 ... 金澤 正憲, 遠藤 彰一	108
政治・立法過程文献データベース—POLEM—	竹島 武郎 115
INSPECデータの特徴と検索	堀池 博巳, 小澤 義明, 村尾 義和, 渡辺 豊英 123
研究・開発のページ	
連続形シミュレーション言語SLCSIVのためのカタログド・プロシジャ	三上 市蔵, 三浦 泰夫 134
IF-800 model 10 によるTSS 端末(1) — アイディアという側面から—	戸田 孝 142
利用者のページ	
プログラム相談室だより(14)—データセット関係ユティリティの紹介—	徳平 省一 150
第16回研究セミナー報告	153
第23回グラフィクス・セミナー報告	154
報 告	
事務報告	156
京都大学大型計算機センター協議員, 運営委員, 業務常任委員	157
昭和59年度利用状況	158
編集後記	164

VOL. 18 NO. 4 1985 (8月)

センターより

<運用関係>

システムの増強計画について	165
運用時間帯について	165
800 BPI磁気テープ変換処理について	165
ODM(日本語文書処理)の運用について	166
INSPEC検索結果の端末側における一時的なファイル保存について	166
開発計画(昭和60年度第2期分)一覧	167
開発計画(昭和60年度第3期分)の募集について	167
PRIMERサービスについて	167

<システム関係>

FAIRSのレベル・アップについて	169
AIM/RDBのレベル・アップについて	169
ODYSSEY(マッピング空間解析システム)のレベル・アップについて	169
SAS/GRAPH図形のNLP出力の変更について	170
コマンド・プロシジャの新設(ODM, FDMSCONV)	171

解 説

ICADについて(1)	寺嶋 広次	172
AIM/RDBを用いた個人データベースの構築(3)	小澤 義明, 堀池 博巳, 村尾 義和, 渡辺 豊英	185

研究・開発のページ

ベクトル計算機における実対称帯行列の三重対角化	呉 永化	199
IF-800 model 10によるTSS 端末(2) —部分的機械語化による高速化—	戸田 孝	203
ライブラリ・プログラムの紹介(58) —MPSX用プレコンパイラ—	宇土 顕彦	210
ライブラリ・プログラムの紹介(59) —X線結晶構造解析のためのプログラム—	多賀 徹, 東 常行, 飯塚 久雄	220

報 告

事務報告	225
昭和59年度京都大学大型計算機センター決算報告	227

資 料

ライブラリ・プログラム一覧	228
---------------------	-----

編集後記	237
------------	-----

VOL. 18 NO. 5 1985 (10月)

センターより

<運用関係>

「全国共通利用番号制の実施のお知らせ」について	239
電子メール・ボックス・システムの運用開始について	240

<システム関係>

REDUCE 3のレベルアップとプロシジャの変更	241
カタログド・プロシジャの新設	241

解 説

FORTRAN 77/VP のレベルアップについて	村尾 義和, 島崎 眞昭	242
電子メール・ボックス・システムについて	金澤 正憲, 平野 彰雄	245
ICADについて (2)	寺嶋 広次	250

研究・開発のページ

パソコン端末におけるローカル・フルスクリーン機能の開発 (PC9801, PC8001)	吉田 昌春	263
---	-------	-----

ライブラリ・プログラムの紹介(60)

——濃淡図形も出力できる NLP用図形出力サブルーチン——

.....	大村 善治, 山本 衛	274
-------	-------------	-----

利用者のページ

パソコン並に使いやすいコンピュータを	片岡 洋右	278
--------------------------	-------	-----

第7回VPユーザセミナー報告	280
センター利用による研究成果	
——昭和59年度計算機システム利用結果報告書添付資料から——	281
報 告	
事務報告	285
編集後記	287
VOL. 18 NO. 6 1985 (12月)	
センターより	
<運用関係>	
年末年始の利用について	289
木曜日のセンター内サービス時間の延長について	289
開発計画 (昭和60年度第3期分) 一覧	289
<システム関係>	
FORTRAN 77/VP のレベルアップについて	290
TSS のCANCELコマンドについて	290
INSPEC (A, B, C) データベースの一部サブファイルのサービス休止について	290
タブレット入力装置 (F6211 A) 用ライブラリの指定について	290
カタログド・プロシジャ GPLOTの変更について	291
解 説	
共通利用番号制実施に伴う申請手続きについて(1)	
..... 金澤 正憲, 山崎 洋一, 芦田 昇	292
FORTRAN 77/VP ベクトル拡張言語の概要	飯田 記子 297
VP 100の利用実績の分析と考察	芦田 昇, 島崎 眞昭 301
研究・開発のページ	
境界積分方程式法におけるVPの活用	廣瀬 壮一 310
PC-9800 シリーズによるカラーグラフィック端末	

..... 花崎 紘一, 福村 和子, 吉田 昌春	317
ライブラリ・プログラムの紹介(61)—図形出力支援サブルーチン・パッケージ—	
..... 塩谷 雅人, 二木 徹, 余田 成男	322
ライブラリ・プログラムの紹介(62)—ジョブのEXCP回数を得るサブルーチン—	
..... 平野 彰雄	331
ライブラリ・プログラムの紹介(63)—順編成データセットの未使用領域解放コマンド	
..... 平野 彰雄	332
談 話 室	
広報編集委員会から	333
利用者のページ	
STREAM 77 を利用して	片岡 洋右 334
京都地区 (第五地区) 協議会総会報告	337
連絡所責任者及び利用者との連絡・懇親会報告	338
第8回VPユーザーセミナー報告	340
報 告	
事務報告	341
資 料	
主システム構成図	343
広報 (Vol. 18) 総目次	345
編集後記	348

大阪大学大型計算機センターニュース

Vol. 14 No. 4 1985-2 第56号

センターだより

昭和60年度利用申請について.....	1
カードロッカーの利用について.....	3

昭和60年度利用者講習計画について	4
昭和60年度研究開発計画の公募について	6
昭和60年度プログラム相談員の募集について	7
昭和59年度下半期プログラム相談室の担当表	8
昭和59年度プログラム指導員名簿	10
大型計算機利用に伴う利用者旅費について	13
アプリケーションプログラム(半経験的分子軌道法プログラム)の サービス開始について	14
統計パッケージ「SPSS-X」のサービス開始について(再掲載)	15
利用負担金について(再掲載)	19
報 告	
昭和59年度稼働状況表	20
センター日誌	31
資 料	
イメージデータとしてTSSグラフィック端末	35
オンラインでのXYプロッタの使用	41
いわゆるひとつのニューメディア論	69
PC-9801Fを用いたグラフィック&漢字ターミナルプログラム	75
半経験的分子軌道法プログラム, MNDOの改良と整備	103
日本語文書の編集出力	123
附 表	
「速報」及び「お知らせ」掲載一覧	147
他センター「センターニュース(広報)」掲載一覧	148
昭和59年度センターニュース総目次	156
センター刊行物一覧	160
ACOSマニュアル一覧	162

センターだより

昭和60年度上半期プログラム相談室の担当表	1
昭和60年度プログラム指導員について	3
大型計算機利用に伴う利用者旅費について	6
図書資料室利用の心得	7
昭和60年度研究開発計画について	8
TSSコマンドの新設について (再掲載)	9
アプリケーション・パッケージの追加 及びバージョンアップについて (再掲載)	11

報 告

昭和59年度稼働状況表	14
センター日誌	25
「スーパーコンピュータに関するアンケート」の調査結果報告	27
将来システム検討懇談会A部会中間報告	30

資 料

スーパーコンピュータとの出会い	35
データベース・アクセスと連動したコンピュータネットワーク上での データ処理の分散とデータ転送	41
\$FMENUコマンドについて	55

附 表

「速報」及び「お知らせ」掲載一覧	63
他センター「センターニュース (広報)」掲載一覧	64
センター刊行物一覧	69
ACOSマニュアル一覧	71

巻頭言	1
センターだより	
昭和60年度プログラム相談室の担当表	2
昭和60年度プログラム指導員について	4
大型計算機利用に伴う利用者旅費について	7
報　　告	
昭和60年度計算機稼働状況	8
センター日誌	18
知識工学特集1	21
知識工学特集にあたって	23
知識工学概論	25
エキスパートシステム構築のための言語と支援ツール	35
あいまいな知識の表現と利用	55
資　　料	
やる気データベースシステム利用説明書	67
SPEECH-DB利用説明書	77
公衆回線を使用したワープロファイルの転送と漢字RUNOFFシステム	107
附　　表	
「速報」及び「お知らせ」掲載一覧	119
他センター「センターニュース（広報）」掲載一覧	120
センター刊行物一覧	129
ACOSマニュアル一覧	131
Vol. 15 No. 3 1985-11 第59号	
センターだより	
昭和60年度下半期プログラム相談室の担当表	1

昭和60年度プログラム指導員について	3
大型計算機利用に伴う利用者旅費について	6
スーパー・コンピュータの導入について	7
生物関連の文献データベースBIOSISについて	9
共通利用番号制について—新年度からの申請手続き等の概要—	10
報 告	
昭和60年度計算機稼働状況	12
センター日誌	22
知識工学特集2	
説明機能と知識獲得支援機能(1)	27
資 料	
SORD-M223を用いた9600BPS TSS端末プログラム	39
ACOSシステム1000 Fortran77 (V)	
エラーメッセージ入門	47
BIOSISデータベース・システムについて	61
附 表	
「速報」掲載一覧	71
広報索引一覧	72
他センター「センターニュース(広報)」掲載一覧	79
センター刊行物一覧	86
ACOSマニュアル一覧	88

九州大学大型計算機センター広報

Vol. 18 No. 1 1985

研究開発

バイナリデータの転送について.....東山 陽一・有吉 弘 1

日本語文章推敲支援ツール「推敲」の使用について	牛島 和夫・藤村 直美・掛下 哲郎 9
プログラムのページ	
流れ図付きソースプログラム作表システム	
—Portflowの改訂について—	牛島 和夫・日並 順二・尹 志熙38
Q & A	42
報 告	
お知らせ	43
講習会報告	50
センター日誌	52
業務報告	53
九州大学大型計算機使用研究課題一覧	57
資 料	
TSS端末一覧	59
Vol. 17 総目次	69
編集後記	71

Vol. 18 No. 2 1985

解 説	
公用データベース「トーマス・マン・ファイル」のファイル追加について	樋口 忠治・篠原 武73
会話型図形処理システムGRAPHMANの使用について	
—石水 結花、武富 敬・平野 広幸・池田 悟・菅崎 直弘・景川 耕字80	
報 告	
お知らせ	119
センター日誌	129
業務報告	130

九州大学大型計算機使用研究課題一覧	134
編集後記	135

Vol. 18 No. 3 1985

解 説

情報検索システムAIRによるJICST科学技術文献ファイル(情報工学)の検索
—日本語文献データの検索—

.....二村 祥一・篠原 武・永井 徳仁・入江 啓一・松尾 文碩 137

研究開発

PROPATH:熱物性値プログラム・パッケージ 第2・1版

.....伊藤 猛宏・黒木 虎人・茂地 徹・高田 保之・本田 知宏・
増岡 隆士・松本 健一・安田 嘉明・山下 宏幸 145

JOIS型漢字端末エミュレータの作成について

.....入江 啓一・永井 徳仁・篠原 武・松尾 文碩 222

日本語文章推敲支援ツール「推敲」の使用について

——メニュー方式の採用——

.....牛島 和夫・日並 順二・伊 志熙 225

相談室だより

昭和60年度後期プログラム相談票のまとめ..... 243

九州大学大型計算機センタープログラム相談員名簿..... 244

連絡所付きプログラム相談員名簿..... 245

報 告

お知らせ..... 246

センター日誌..... 253

業務報告..... 254

九州大学大型計算機使用研究課題一覧..... 258

資 料

端局一覽	260
コンプリート形式プログラム使用頻度調査	272
サブルーチン形式プログラム使用頻度調査	276
データベース利用状況	286
編集後記	287

Vol. 18 No. 4 1985

解 説

日本語情報システムJEFのJEFⅡへの移行について(1)

—— JEFⅡの概要と従来システムとの互換性 ——

……………武富 敬・菅崎 直弘・山本 美保子・池田 悟・景川 耕字 289

日本語情報システムJEFのJEFⅡへの移行について(2)

—— 文書処理システムODMの使用法 ——

……………石永 結花・河津 秀利・平野 広幸・松永 ナツキ・
桜井 尚子・矢次 恵美子・武富 敬…………… 303

報 告

お知らせ…………… 353

講習会報告…………… 363

センター日誌…………… 364

業務報告…………… 365

九州大学大型計算機使用研究課題一覽…………… 369

資 料

TSS端末一覽…………… 374

計算機利用報告書添付資料一覽…………… 381

編集後記…………… 396

解 説

ベクトルプロセッサ FACOM VP1000について

.....磯部 文雄・松延 尚・今村 一・武富 敬・景川 耕字 397

研究開発

センター案内情報システムNGUIDEの使用について

.....武富 敬・平野 広幸・石氷 結花・景川 耕字 413

プログラムのページ

ホスト (FACOM M-180, 200, 382) とTTY手順端末間でのファイル転送

.....長谷部 信行・吉井 尚・古金 卯太郎 448

報 告

お知らせ..... 454

講習会報告..... 467

センター日誌..... 469

業務報告..... 470

九州大学大型計算機使用研究課題一覧..... 474

編集後記..... 478

随 想

電子計算機の発明者は.....的場 優 479

解 説

データベースの活用法 (1) Adbis によるデータベースの構築について

.....河野 重昭 482

データベースの活用法 (2) DMPによるデータベースの検索について

.....河野 重昭 487

情報検索システムAIRによるRAMBIOSの検索

.....木原 裕・二村 祥一・河津 秀利・林 健児・

	和田 正美・郷 信広	497
ODMの使用法	—— 科学技術論文作成者のために ——	
		江口 三代 507
核酸塩基配列データベースシステムGENASの使用法(2)		
	久原 哲・榑 佳之・高木 利久・松尾 文碩・二村 祥一	533
ベクトルプロセッサの有効な使用法(1)		
—— チューニングツールの使用法について ——		
	石水 結花・河津 秀利・菅崎 直弘・山本美保子・武富 敬	552
ベクトルプロセッサの有効な使用法(2)		
—— プログラムの高速化について ——		
	武富 敬・桜井 尚子・平野 広幸・景川 耕宇	580
研究開発		
ファイル比較プログラムFCMPの機能改善について		藤村 直美 601
相談室だより		
昭和60年度前期プログラム相談票のまとめ		612
九州大学大型計算機センタープログラム相談員名簿		613
連絡所付きプログラム相談員名簿		614
報 告		
お知らせ		615
センター日誌		620
業務報告		621
九州大学大型計算機使用研究課題一覧		625
資 料		
コンプリート形式プログラム使用頻度調査		627
サブルーチン形式プログラム使用頻度調査		631
データベース利用状況		641
編集後記		642